

注3

大学番号：010

[平成30年度設置]

事前伺い

計画の区分：研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

東北大学大学院 生命科学研究科

脳生命統御科学専攻、生態発生適応科学専攻及び分子化学生物学専攻

注2

【事前伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人東北大学
令和2年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 総務企画部法務・コンプライアンス課

職名・氏名 課長 ^{スガワラ}菅原 ^{タカシ}隆
法規係長 ^{ウドウ}工藤 ^{ジュンペイ}淳平

電話番号 022-217-4809

（夜間） 022-217-4809

FAX 022-217-6068

e-mail hosei@grp.tohoku.ac.jp

（注）1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部 □□学科

（旧名称：◇◇学科（平成◇◇年度より学科名称変更））

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻（修士課程）」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和2年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

生命科学研究科

＜脳生命統御科学専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	9
4. 既設大学等の状況	10
5. 教員組織の状況	15
6. 附帯事項等に対する履行状況等	22
7. その他全般的事項	23

＜生態発生適応科学専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	26
2. 授業科目の概要	30
3. 施設・設備の整備状況、経費	34
4. 既設大学等の状況	35
5. 教員組織の状況	40
6. 附帯事項等に対する履行状況等	47
7. その他全般的事項	48

＜分子化学生物学専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	51
2. 授業科目の概要	55
3. 施設・設備の整備状況、経費	59
4. 既設大学等の状況	60
5. 教員組織の状況	65
6. 附帯事項等に対する履行状況等	73
7. その他全般的事項	74

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

国立大学法人東北大学

(2) 大 学 名

東北大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

〒980-8577

宮城県仙台市青葉区片平2丁目1番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
学 長	(オオノ ヒデオ) 大野 英男 (平成30年4月)		
研究科長	(ヒガシタニ アツシ) 東谷 篤志 (平成27年4月)	(スギモト アサコ) 杉本 亜砂子 (平成31年4月)	任期満了のため平成31年4月1日付けで変更(元)
専 攻 長	(フクダ ミツノリ) 福田 光則 (平成30年4月)	(タグチ トモヒコ) 田口 友彦 (令和2年4月)	任期満了のため令和2年4月1日付けで変更(2)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)

令和2年度に報告する内容 → (2)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
生命科学研究科 脳生命統御科学専攻 (博士後期課程) 博士(生命科学)	理学関係 農学関係 医学関係	3年	10人	年次人	30人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員 超過率	開設年度から報告 年度までの平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	10人 (-) [-]		10人 (-) [-]		10人 (-) [-]		0.50倍	—	令和2年10月 入学を実施予定
志願者数	5 (0) [0]	0 (0) [0]	6 (0) [0]	0 (0) [0]	4 (0) [1]				
受験者数	5 (0) [0]	0 (0) [0]	6 (0) [0]	0 (0) [0]	4 (0) [1]				
合格者数	5 (0) [0]	0 (0) [0]	6 (0) [0]	0 (0) [0]	4 (0) [1]				
B 入学者数	5 (0) [0]	0 (0) [0]	6 (0) [0]	0 (0) [0]	4 (0) [1]				
入学定員超過率 B/A	0.50		0.60		0.40				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	5 [0] (-)	0 [0] (-)	6 [0] (-)	0 [0] (-)	4 [1] (-)	0 [0] (-)	
2年次			4 [0] (-)	0 [0] (-)	6 [0] (-)	0 [0] (-)	
3年次					4 [0] (-)	 [] ()	
計	5 [0] (-)		10 [0] (-)		14 [1] (-)		

・令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	5 人	0 人	平成30年度	0 人	0 人	
令和元年度	11 人	1 人	平成30年度	1 人	0 人	進路変更のため(1人)
			令和元年度	0 人	0 人	
令和2年度	14 人	0 人	平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
合 計		1 人		1 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{5} = \boxed{0} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{11} = \boxed{9.09} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{14} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<生命科学研究所 脳生命統御科学専攻（後期課程）>

（1）－① 授業科目表

【事前伺い時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	課題研究B(脳生命統御科学)	1・2・3通	8			11	3		12		
	イノベーションセミナー	1前・後	1								兼1
	起業支援論	1前・後		2							兼1
	バイオ産業実践科目	2前・後		2							兼1
	小計(4科目)	－	9	4		11	3		12		兼3
	合計(4科目)	－	9	4		11	3		12		兼3
修了要件及び履修方法											
必修科目9 単位を修得すること。											

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	課題研究B(脳生命統御科学)	1・2・3通	8			11	2		11		兼3
	イノベーションセミナー	1前・後	1								兼2
	起業支援論	1前・後		2							兼1
	バイオ産業実践科目	2前・後		2							兼3
	小計(4科目)	－	9	4		11	2		11		兼6
	合計(4科目)	－	9	4		11	2		11		兼6
修了要件及び履修方法											
必修科目9 単位を修得すること。											

【平成30年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	課題研究B(脳生命統御科学)	1・2・3通	8			10	2	1	10		兼4
	イノベーションセミナー	1前・後	1								兼2
	起業支援論	1前・後		2							兼1
	バイオ産業実践科目	2前・後		2							兼3
	小計(4科目)	—	9	4		10	2	1	10		兼7
合計(4科目)			—	9	4	10	2	1	10		兼7
修了要件及び履修方法											
必修科目9単位を修得すること。											

【令和元年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	課題研究B(脳生命統御科学)	1・2・3通	8			11	2		12		兼3
	イノベーションセミナー	1前・後	1								兼2
	起業支援論	1前・後		2							兼1
	バイオ産業実践科目	2前・後		2							兼3
	小計(4科目)	—	9	4		11	2		12		兼6
合計(4科目)			—	9	4	11	2		12		兼6
修了要件及び履修方法											
必修科目9単位を修得すること。											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。
 - ・ (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・教授1名及び助教4名辞退、助教4名採用、助教から准教授に昇任、教育内容の充実並びに事前伺い時の記載誤りのため、「課題研究B（脳生命統御科学）」の専任教員等の配置を「教授11、准教授3、助教12」から「教授10、准教授2、講師1、助教10、兼4」に変更。
- ・教育内容の充実のため、「イノベーションセミナー」の専任教員等の配置を「兼1」から「兼2」へ変更。
- ・教育内容の充実のため、「バイオ産業実践科目」の専任教員等の配置を「兼1」から「兼3」へ変更。

【令和元年度】

- ・講師1名、助教1名及び講師（兼）1名退職並びに教授1名及び助教3名採用のため、「課題研究B（脳生命統御科学）」の専任教員等の配置を「教授10、講師1、助教10、兼4」から「教授11、助教12、兼3」に変更。

【令和2年度】

- ・助教1名退職のため、「課題研究B（脳生命統御科学）」の専任教員等の配置を「助教12」から「助教11」に変更。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
2 科目	2 科目	0 科目	4 科目	2 科目 [0]	2 科目 [0]	0 科目 [0]	4 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{4} = \boxed{} 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1)	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	購入のため(2) 一部売却のため(元)			
	校 舎 敷 地	21,917,049㎡ 21,915,365㎡ 22,010,146㎡	0㎡	0㎡	21,917,049㎡ 21,915,365㎡ 22,010,146㎡				
	運動場用地	132,573㎡	0㎡	0㎡	132,573㎡				
	小 計	22,049,622㎡ 22,047,938㎡ 22,142,719㎡	0㎡	0㎡	22,049,622㎡ 22,047,938㎡ 22,142,719㎡				
	そ の 他	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡				
	合 計	22,049,622㎡ 22,047,938㎡ 22,142,719㎡	0㎡	0㎡	22,049,622㎡ 22,047,938㎡ 22,142,719㎡				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	一部取り壊しのため(2) 一部取り壊しのため(元)				
	1,119,573㎡ 1,121,513㎡ 1,152,992㎡ (1,152,992㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	1,119,573㎡ 1,121,513㎡ 1,152,992㎡ (1,152,992㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	3室	0室	57室	0室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	生命科学研究所脳生命統御科学専攻			15 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	研究科単位での特定不能な ため、大学全体の数 図書等購入及び視聴覚資料等 廃棄のため(2) 図書等購入のため(元)	
		生命科学研究所 脳生命統御科学 専攻	4,180,950 (1,974,780) 4,168,468 (1,974,876) 4,142,543 (1,970,596) (4,180,950 (1,974,780)) (4,168,468 (1,974,876)) (4,142,543 (1,970,596))	86,599 (42,652) 86,198 (42,422) 84,979 (42,100) (86,599 (42,652)) (86,198 (42,422)) (84,979 (42,100))	13,543 (13,528) 13,287 (13,272) 13,431 (13,416) (13,543 (13,528)) (13,287 (13,272)) (13,431 (13,416))	7,429 8,242 7,232 (7,429) (8,242) (7,232)	46,462 45,198 38,733 (46,462) (45,198) (38,733)		2,432,337 2,432,339 2,432,337 (2,432,337) (2,432,339) (2,432,337)
		計	4,180,950 (1,974,780) 4,168,468 (1,974,876) 4,142,543 (1,970,596) (4,180,950 (1,974,780)) (4,168,468 (1,974,876)) (4,142,543 (1,970,596))	86,599 (42,652) 86,198 (42,422) 84,979 (42,100) (86,599 (42,652)) (86,198 (42,422)) (84,979 (42,100))	13,543 (13,528) 13,287 (13,272) 13,431 (13,416) (13,543 (13,528)) (13,287 (13,272)) (13,431 (13,416))	7,429 8,242 7,232 (7,429) (8,242) (7,232)	46,462 45,198 38,733 (46,462) (45,198) (38,733)		2,432,337 2,432,339 2,432,337 (2,432,337) (2,432,339) (2,432,337)
	(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
37,050㎡ 45,481㎡		2,554席 2,885席 2,874席		3,914,722冊 4,328,122冊 4,563,766冊		一部改修中のため(2) 座席の新規購入及び書庫の収 容量の縮小のため(元)			
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体			
	7,024㎡	武道場							
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
		共 同 研 究 費 等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はA-C対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称		東北大学										備 考
既設学部等の名称		修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入 学定員 超過率	令和2 年度入 学定員 超過率	定員変更 年度（AC 期間の学 科のみ）	開設 年度	所 在 地	
文学部	人文社会学科	4	210	—	840	学士 （文学）	1.05	1.05		平9年度 改組	宮城県仙台市青 葉区川内27番1号	
	教育学部	4	70	—	280	学士 （教育学）	1.05	1.07		平10年 度改組	宮城県仙台市青 葉区川内27番1号	
法学部	法学科	4	160	—	640	学士 （法学）	1.05	1.04		昭24年 度	宮城県仙台市青 葉区川内27番1号	
経済学部	経済学科	4	130	3年次 10	540	学士 （経済学）	1.04	1.03		昭24年 度	宮城県仙台市青 葉区川内27番1号	
	経営学科	4	130	3年次 10	540					昭43年 度		
	計		260	20	1,080							
理学部	数学科	4	45	—	180	学士 （理学）	0.97	0.97		昭24年 度	宮城県仙台市青 葉区荒巻字青葉6 番3号	
	物理学科	4	78	—	312		1.00	1.00		平6年度 改組・統 合		
	宇宙地球物理学科	4	41	—	164					平4年度 改組		
	化学科	4	70	—	280		1.07	1.00		平7年度 改組・統 合		
	地圏環境科学科	4	30	—	120		1.01	1.02		平4年度 改組		
	地球惑星物質科学 科	4	20	—	80					平4年度 改組（平 20年度 改称）		
	生物学科	4	40	—	160		1.03	1.05		昭24年 度		
	計		324	—	1,296		1.01	1.00				
医学部	医学科	6	116	—	791	学士 （医学）	1.01	1.01	令和2	昭24年 度	宮城県仙台市青 葉区星陵町2番1 号	令和2年度定員変 更（11）
	保健学科	4	144	—	576	学士 （看護学） 学士 （保健学）	1.00	0.98		平16年 度改組		
	計		279	—	1,386		1.01	1.00				
歯学部	歯学科	6	53	—	318	学士 （歯学）	1.00	1.00		昭40年 度	宮城県仙台市青 葉区星陵町2番1 号	
薬学部	創薬科学科	4	60	—	240	学士 （創薬科学）	1.08	1.06		平18年 度改組	宮城県仙台市青 葉区荒巻字青葉6 番3号	
	薬学科	6	20	—	120	学士 （薬学）	1.07	1.05				
	計		80	—	360		1.07	1.06				

工学部	機械知能・航空工学科	4	234	—	936	学士 (工学)	1.01	0.95		平16年度改組	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6番6号	
	電気情報物理工学科	4	243	—	972		1.02	1.03		平16年度改組 (平19年度・平27年度改称)		
	化学・バイオ工学科	4	113	—	452		0.99	1.01		平16年度改組		
	材料科学総合学科	4	113	—	452		1.01	1.02				
	建築・社会環境工学科	4	107	—	428		1.00	1.01				
	計		810	—	3,240		1.01	1.00				
農学部	生物生産科学科	4	90	—	360	学士 (農学)	1.04	1.04		平4年度	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉468-1	
	応用生物化学科	4	60	—	240							
	計		150	—	600		1.04	1.04				
※ 複数の学科を有する学部の学生募集は、経済学部、薬学部及び農学部にあつては学部一括で、理学部にあつては1又は複数の学科毎にそれぞれ行い、学生の所属学科は、第1年次修了時、第2年次又は第3年次に決定する。												
文学研究科	日本文学専攻	5	29	—	58	修士 (文学) 修士 (学術) 博士 (文学) 博士 (学術)	1.18	1.24	令和元	令和元年度改組	宮城県仙台市青葉区川内27番1号	学生数は、上段が前期課程で、下段が後期課程である。
			14	—	28		1.31	1.21	令和元			
	広域文化学専攻	5	29	—	58		0.84	0.68	令和元			
			12	—	24		0.95	1.16	令和元			
	総合人間学専攻	5	31	—	62		1.19	1.09	令和元			
			12	—	24		1.08	1.16	令和元			
	文化科学専攻	5	—	—	—		—	—		平11年度改組		
			—	—	—		—	—				
	言語科学専攻	5	—	—	—		—	—		平12年度改組		
			—	—	—		—	—				
歴史科学専攻	5	—	—	—	—	—		平12年度改組				
		—	—	—	—	—						
人間科学専攻	5	—	—	—	—	—		平12年度改組				
		—	—	—	—	—						
教育学研究科	総合教育科学専攻	5	45	—	90	修士 (教育学) 修士 (教育情報学) 博士 (教育学) 博士 (教育情報学)	0.93	0.91		平30年度改組	宮城県仙台市青葉区川内27番1号	
			15	—	45		1.20	1.00				
法学研究科	法政理論研究専攻	5	10	—	20	修士 (法学) 修士 (学術) 博士 (法学) 博士 (学術)	0.95	0.60		平12年度改組 (平18年度改称)	宮城県仙台市青葉区川内27番1号	平成30年度定員変更 (△8)
			12	—	36		0.63	0.66				
	総合法制専攻 (法科大学院の課程)	3	50	—	150	法務博士 (専門職)	0.82	1.04		平16年度改組	宮城県仙台市青葉区片平二丁目1番1号	
	公共法政策専攻 (専門職学位課程)	2	30	—	60	公共法政策修士 (専門職)	1.06	1.00				

経済学研究科	経済経営学専攻	5	60	—	110	修士 (経済学) 修士 (経営学) 修士 (学術) 博士 (経済学) 博士 (経営学) 博士 (学術)	0.80	0.53		平17年度改組	宮城県仙台市青葉区川内27番1号	令和2年度定員変更 (10)
			14	—	54		0.68	0.35	令和2年度定員変更 (△6)			
	会計専門職専攻 (専門職学位課程)	2	40	—	80	会計修士 (専門職)	0.87	0.75		平17年度		
理学研究科	数学専攻	5	38	—	76	修士 (理学) 修士 (学術) 博士 (理学) 博士 (学術)	0.87	0.89		平7年度改組	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6番3号	
			18	—	54		0.57	0.44				
	物理学専攻	5	91	—	182		0.88	0.84		平6年度改組		
			46	—	138		0.55	0.54				
	天文学専攻	5	9	—	18		1.11	1.22				
			4	—	12		0.66	0.50				
	地球物理学専攻	5	26	—	52		1.01	0.96				
			13	—	39		0.56	0.46				
	化学専攻	5	66	—	132		1.23	1.09		平7年度改組		
			33	—	99		0.55	0.48				
	地学専攻	5	32	—	64		1.19	1.18		平6年度改組		
			16	—	48		0.51	0.37				
医学系研究科	医科学専攻 (修士課程)	2	30	—	60	修士 (医科学) 修士 (学術)	1.16	1.00		平15年度改組	宮城県仙台市青葉区星陵町2番1号	平成30年度定員変更 (△2)
	医科学専攻 (博士課程)	4	130	—	520	博士 (医学) 博士 (学術)	1.09	1.01		平9年度改組		
	障害科学専攻	5	20	—	40	修士 (障害科学) 修士 (学術) 博士 (障害科学) 博士 (学術)	0.82	0.65		平6年度改組		
			9	—	27		1.14	0.33		平8年度改組		
	保健学専攻	5	32	—	64	修士 (看護学) 修士 (保健学) 修士 (学術) 博士 (看護学) 博士 (保健学) 博士 (学術)	1.20	1.25		平20年度改組		
			12	—	36		1.11	1.00		平22年度改組		
公衆衛生学専攻 (修士課程)	2	10	—	20	修士 (公衆衛生学)	1.15	1.20		平27年度			
歯学研究科	歯科学専攻 (修士課程)	2	8	—	14	修士 (口腔科学) 修士 (学術)	1.06	1.12		平16年度	宮城県仙台市青葉区星陵町4番1号	令和2年度定員変更 (2)
	歯科学専攻 (博士課程)	4	42	—	168	博士 (歯学) 博士 (学術)	0.94	0.73		平12年度改組		

薬学研究科	分子薬科学専攻	5	22	—	44	修士 (薬科学) 修士 (学術) 博士 (薬科学) 博士 (学術)	1.26	1.22	平22年度	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6番3号	
			8	—	24		0.66	0.75			
	生命薬科学専攻	5	32	—	64		0.96	0.87			
			10	—	30		0.73	1.00			
	医療薬学専攻 (博士課程)	4	4	—	16	博士 (薬学) 博士 (学術)	0.50	0.75	平24年度		
工学部	機械機能創成専攻	5	42	—	84	修士 (工学) 修士 (学術) 博士 (工学) 博士 (学術)	1.39	1.45	平7年度改組(平16年度改称・平28年度改称)	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6番6号	
			10	—	30		1.23	1.20			
	ファインメカニクス専攻	5	45	—	90		1.10	0.93			
			11	—	33		0.45	0.18			
	ロボティクス専攻	5	42	—	84		0.88	0.69	平15年度(平28年度改称)		
			11	—	33		0.69	0.36			
	航空宇宙工学専攻	5	42	—	84		1.51	1.42	平7年度改組		
			11	—	33		1.05	1.09			
	量子エネルギー工学専攻	5	38	—	76		1.12	1.10	昭33年度(平8年度改称)		
			11	—	33		0.84	0.63			
	電気エネルギーシステム専攻	5	32	—	64		1.18	1.31	平24年度		
			8	—	24		0.29	0.25			
	通信工学専攻	5	31	—	62		1.43	1.29			
			8	—	24		0.91	0.75			
	電子工学専攻	5	51	—	102		0.87	0.88	昭28年度		
			15	—	45		0.26	0.20			
	応用物理学専攻	5	32	—	64		0.93	0.78			
			11	—	33		0.72	0.54			
	応用化学専攻	5	26	—	52		0.93	0.76	昭40年度		
			8	—	24		0.70	0.37			
	化学工学専攻	5	34	—	68		1.05	1.05			
			7	—	21		0.51	0.42			
	バイオ工学専攻	5	19	—	38		1.21	1.21	平4年度(平16年度改称)		
			5	—	15		0.66	0.60			
	金属フロンティア工学専攻	5	26	—	52		1.18	1.11	昭28年度(平16年度改称)		
			7	—	21		1.09	0.71			
	知能デバイス材料学専攻	5	37	—	74		1.18	1.10	昭39年度(昭62年度・平16年度改称)		
			10	—	30		1.16	0.70			
	材料システム工学専攻	5	30	—	60		1.13	1.06	昭44年度(平9年度・平16年度改称)		
			8	—	24		0.91	0.75			
	土木工学専攻	5	43	—	86		1.23	1.13	昭38年度		
			12	—	36		1.38	1.08			
	都市・建築学専攻	5	45	—	90		1.16	1.15	昭38年度(平8年度改称)		
			8	—	24		1.28	0.87			
	技術社会システム専攻	5	21	—	42		1.11	1.14	平14年度		
			13	—	39		0.32	0.30			

農学研究科	資源生物科学専攻	5	36	—	72	修士 (農学) 修士 (学術) 博士 (農学) 博士 (学術)	1.30	1.22		平15年 度改組	宮城県仙台市青 葉区荒巻字青葉 468-1		
			13	—	39		0.99	0.76					
	応用生命科学専攻	5	35	—	70		1.15	1.08					
			13	—	39		0.50	0.30					
	生物産業創成科学 専攻	5	38	—	76		1.28	1.36					
			11	—	33		1.14	0.63					
国際文化研究科	国際文化研究専攻	5	35	—	70	修士 (国際文化) 修士 (学術) 博士 (国際文化) 博士 (学術)	0.90	1.00		平27年 度改組	宮城県仙台市青 葉区川内41		
			16	—	48		0.74	0.43					
情報科学研究科	情報基礎科学専攻	5	38	—	76	修士 (情報科学) 修士 (学術) 博士 (情報科学) 博士 (学術)	0.97	1.00		平5年度	宮城県仙台市青 葉区荒巻字青葉6 番3号		
			11	—	33		0.57	0.27					
	システム情報科学 専攻	5	37	—	74		1.25	1.24					
			11	—	33		1.26	0.81					
	人間社会情報科学 専攻	5	30	—	60		0.68	0.56					
			10	—	30		0.80	1.00					
	応用情報科学専攻	5	35	—	70		1.35	1.22		平15年 度			
10			—	30	0.66	0.50							
生命科学研究科	脳生命統御科学専 攻	5	36	—	72	修士 (生命科学) 修士 (学術) 博士 (生命科学) 博士 (学術)	0.85	0.77		平30年 度改組	宮城県仙台市青 葉区片平二丁目1 番1号		
			10	—	30		0.50	0.40					平成30
	生態発生適応科学 専攻	5	35	—	70		0.78	0.62					平成30
			10	—	30		0.80	0.60					
	分子化学生物学専 攻	5	35	—	70		1.22	1.22					平成30
			10	—	30		0.70	0.70					
環境科学研究科	先進社会環境学専 攻	5	40	—	80	修士 (環境科学) 修士 (学術) 博士 (環境科学) 博士 (学術)	1.11	1.05		平27年 度改組	宮城県仙台市青 葉区荒巻字青葉 468-1		
			13	—	39		1.07	0.38					
	先端環境創成学専 攻	5	60	—	120		0.93	0.91					
			20	—	60		0.60	0.50					
医工学研究科	医工学専攻	5	39	—	78	修士 (医工学) 修士 (学術) 博士 (医工学) 博士 (学術)	1.17	1.05		平20年 度	宮城県仙台市青 葉区星陵町2番1 号 宮城県仙台市青 葉区荒巻字青葉6 番6号 宮城県仙台市青 葉区片平二丁目1 番1号	平成30年度定員 変更 (2)	
			12	—	36		1.05	1.00					

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<生命科学研究所 脳生命統御科学専攻（後期課程）>

（１）－① 担当教員表

【事前伺い時】			【平成30年度】			【令和元年度】			【令和2年度】		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	谷本 拓 (43) <平成30年4月> 博士(理学)	専	教授	谷本 拓 (44) <平成30年4月> 博士(理学)	専	教授	谷本 拓 (45) <平成30年4月> 博士(理学)	専	教授	谷本 拓 (46) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)
専	教授	山元 大輔 (63) <平成30年4月> 理学博士									
		課題研究B(脳生命統御科学)									
専	教授	安部 健太郎 (37) <平成30年4月> 博士(生命科学)	専	教授	安部 健太郎 (38) <平成30年4月> 博士(生命科学)	専	教授	安部 健太郎 (39) <平成30年4月> 博士(生命科学)	専	教授	安部 健太郎 (40) <平成30年4月> 博士(生命科学)
		課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)
専	教授	筒井 健一郎 (45) <平成30年4月> 博士(心理学)	専	教授	筒井 健一郎 (46) <平成30年4月> 博士(心理学)	専	教授	筒井 健一郎 (47) <平成30年4月> 博士(心理学)	専	教授	筒井 健一郎 (48) <平成30年4月> 博士(心理学)
		課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)
専	教授	福田 光則 (49) <平成30年4月> 博士(医学)	専	教授	福田 光則 (50) <平成30年4月> 博士(医学)	専	教授	福田 光則 (51) <平成30年4月> 博士(医学)	専	教授	福田 光則 (52) <平成30年4月> 博士(医学)
		課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)
専	教授	杉本 亜砂子 (52) <平成30年4月> 博士(理学)	専	教授	杉本 亜砂子 (53) <平成30年4月> 博士(理学)	専	教授	杉本 亜砂子 (54) <平成30年4月> 博士(理学)	専	教授	杉本 亜砂子 (55) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)
専	教授	田口 友彦 (47) <平成30年4月> 博士(理学)	専	教授	田口 友彦 (48) <平成30年4月> 博士(理学)	専	教授	田口 友彦 (49) <平成30年4月> 博士(理学)	専	教授	田口 友彦 (50) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)
専	教授	松井 広 (43) <平成30年4月> 博士(心理学)	専	教授	松井 広 (44) <平成30年4月> 博士(心理学)	専	教授	松井 広 (45) <平成30年4月> 博士(心理学)	専	教授	松井 広 (46) <平成30年4月> 博士(心理学)
		課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)
専	教授	松居 靖久 (57) <平成30年4月> 薬学博士	専	教授	松居 靖久 (58) <平成30年4月> 薬学博士	専	教授	松居 靖久 (59) <平成30年4月> 薬学博士	専	教授	松居 靖久 (60) <平成30年4月> 薬学博士
		課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)
専	教授	千葉 奈津子 (48) <平成30年4月> 博士(医学)	専	教授	千葉 奈津子 (49) <平成30年4月> 博士(医学)	専	教授	千葉 奈津子 (50) <平成30年4月> 博士(医学)	専	教授	千葉 奈津子 (51) <平成30年4月> 博士(医学)
		課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)
専	教授	小椋 利彦 (58) <平成30年4月> 博士(医学)	専	教授	小椋 利彦 (59) <平成30年4月> 博士(医学)	専	教授	小椋 利彦 (60) <平成30年4月> 博士(医学)	専	教授	小椋 利彦 (61) <平成30年4月> 博士(医学)
		課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)
						専	教授	竹内 秀明 (48) <令和元年11月> 博士(薬学)	専	教授	竹内 秀明 (49) <令和元年11月> 博士(薬学)
								課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)
専	准教授	小金澤 雅之 (46) <平成30年4月> 博士(理学)	専	准教授	小金澤 雅之 (47) <平成30年4月> 博士(理学)	専	准教授	小金澤 雅之 (48) <平成30年4月> 博士(理学)	専	准教授	小金澤 雅之 (49) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)			課題研究B(脳生命統御科学)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	石塚 徹 (48) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	助教	山方 恒宏 (36) ＜平成30年4月＞ 博士（生命科学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	助教	佐藤 耕世 (37) ＜平成30年4月＞ 博士（生命科学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	助教	田中 雅史 (36) ＜平成30年7月＞ 博士（心理学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	助教	大原 慎也 (36) ＜平成30年4月＞ 博士（生命科学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	助教	藤田 尚信 (37) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	助教	久保田 幸彦 (49) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	助教	永井 友朗 (31) ＜平成30年4月＞ 博士（生命科学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	助教	林 陽平 (34) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	助教	吉野 優樹 (32) ＜平成30年4月＞ 博士（医学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	助教	久保 純 (35) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	助教	松本 健 (43) ＜平成30年4月＞ 博士（バイオサイエンス） 課題研究B（脳生命統御科学）

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	石塚 徹 (49) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	准教授	山方 恒宏 (37) ＜平成30年4月＞ 博士（生命科学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	助教	田中 雅史 (37) ＜平成30年7月＞ 博士（心理学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	助教	大原 慎也 (37) ＜平成30年10月＞ 博士（生命科学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	助教	藤田 尚信 (38) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	助教	林 陽平 (35) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	助教	吉野 優樹 (33) ＜平成30年4月＞ 博士（医学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	助教	久保 純 (36) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	助教	春田 奈美 (44) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	助教	大塚 豊 (30) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究B（脳生命統御科学）

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	山方 恒宏 (38) ＜平成30年4月＞ 博士（生命科学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	助教	田中 雅史 (38) ＜平成30年7月＞ 博士（心理学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	助教	大原 慎也 (38) ＜平成30年10月＞ 博士（生命科学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	助教	林 陽平 (36) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	助教	吉野 優樹 (34) ＜平成30年4月＞ 博士（医学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	助教	久保 純 (37) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	助教	春田 奈美 (45) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	助教	大塚 豊 (31) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究B（脳生命統御科学）

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	山方 恒宏 (39) ＜平成30年4月＞ 博士（生命科学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	助教	大原 慎也 (39) ＜平成30年10月＞ 博士（生命科学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	助教	林 陽平 (37) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	助教	吉野 優樹 (35) ＜平成30年4月＞ 博士（医学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	助教	久保 純 (38) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	助教	春田 奈美 (46) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究B（脳生命統御科学）
専	助教	大塚 豊 (32) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究B（脳生命統御科学）

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
			専	助教	向井 康治朗 (31) ＜平成30年8月＞ 博士(薬科学) 課題研究B(脳生命統御科学)	専	助教	向井 康治朗 (32) ＜平成30年8月＞ 博士(薬科学) 課題研究B(脳生命統御科学)	専	助教	向井 康治朗 (33) ＜平成30年8月＞ 博士(薬科学) 課題研究B(脳生命統御科学)
			専	助教	中村 晋也 (37) ＜平成30年10月＞ 博士(生命科学) 課題研究B(脳生命統御科学)	専	助教	中村 晋也 (38) ＜平成30年10月＞ 博士(生命科学) 課題研究B(脳生命統御科学)	専	助教	中村 晋也 (39) ＜平成30年10月＞ 博士(生命科学) 課題研究B(脳生命統御科学)
						専	助教	松井 貴英 (33) ＜平成31年3月＞ 博士(生命科学) 課題研究B(脳生命統御科学)	専	助教	松井 貴英 (34) ＜平成31年3月＞ 博士(生命科学) 課題研究B(脳生命統御科学)
						専	助教	常松 友美 (34) ＜平成31年4月＞ 博士(理学) 課題研究B(脳生命統御科学)	専	助教	常松 友美 (35) ＜平成31年4月＞ 博士(理学) 課題研究B(脳生命統御科学)
						専	助教	安齊 賢 (30) ＜令和元年11月＞ 博士(農学) 課題研究B(脳生命統御科学)	専	助教	安齊 賢 (31) ＜令和元年11月＞ 博士(農学) 課題研究B(脳生命統御科学)
兼任	教授	東谷 篤志 (54) ＜平成30年4月＞ 理学博士 イノベーションセミナー バイオ産業実践科目	兼任	教授	東谷 篤志 (55) ＜平成30年4月＞ 理学博士 イノベーションセミナー バイオ産業実践科目	兼任	教授	東谷 篤志 (56) ＜平成30年4月＞ 理学博士 イノベーションセミナー バイオ産業実践科目	兼任	教授	東谷 篤志 (57) ＜平成30年4月＞ 理学博士 イノベーションセミナー バイオ産業実践科目
兼任	教授	河田 雅圭 (59) ＜平成30年4月＞ 農学博士 起業支援論	兼任	教授	河田 雅圭 (60) ＜平成30年4月＞ 農学博士 イノベーションセミナー 起業支援論 バイオ産業実践科目	兼任	教授	河田 雅圭 (61) ＜平成30年4月＞ 農学博士 イノベーションセミナー 起業支援論 バイオ産業実践科目	兼任	教授	河田 雅圭 (62) ＜平成30年4月＞ 農学博士 イノベーションセミナー 起業支援論 バイオ産業実践科目
			兼任	教授	大隅 典子 (57) ＜平成30年4月＞ 博士(歯学) 課題研究B(脳生命統御科学)	兼任	教授	大隅 典子 (58) ＜平成30年4月＞ 博士(歯学) 課題研究B(脳生命統御科学)	兼任	教授	大隅 典子 (59) ＜平成30年4月＞ 博士(歯学) 課題研究B(脳生命統御科学)
			兼任	教授	田中 耕三 (52) ＜平成30年4月＞ 博士(医学) 課題研究B(脳生命統御科学)	兼任	教授	田中 耕三 (53) ＜平成30年4月＞ 博士(医学) 課題研究B(脳生命統御科学)	兼任	教授	田中 耕三 (54) ＜平成30年4月＞ 博士(医学) 課題研究B(脳生命統御科学)
			兼任	教授	高井 俊行 (60) ＜平成30年4月＞ 博士(医学) 課題研究B(脳生命統御科学)	兼任	教授	高井 俊行 (61) ＜平成30年4月＞ 博士(医学) 課題研究B(脳生命統御科学)	兼任	教授	高井 俊行 (62) ＜平成30年4月＞ 博士(医学) 課題研究B(脳生命統御科学)
			兼任	准教授	佐藤 修正 (52) ＜平成30年4月＞ 博士(理学) バイオ産業実践科目	兼任	准教授	佐藤 修正 (53) ＜平成30年4月＞ 博士(理学) バイオ産業実践科目	兼任	准教授	佐藤 修正 (54) ＜平成30年4月＞ 博士(理学) バイオ産業実践科目
			兼任	講師	山元 大輔 (64) ＜平成30年4月＞ 理学博士 課題研究B(脳生命統御科学)						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・山元大輔教授就任辞退。後任は平成31年度以降に採用予定。
- ・山方恒宏助教を准教授に昇任。
- ・佐藤耕世助教就任辞退。他に担当教員がいるため支障なし。後任は平成31年度以降に採用予定。
- ・平成30年10月大原慎也助教就任。
- ・久保田幸彦助教就任辞退により、春田奈美助教に変更。
- ・永井友朗助教就任辞退により、向井康治朗助教に変更。
- ・松本健助教就任辞退により、大塚慧助教に変更。
- ・平成30年10月中村晋也助教就任。
- ・教育内容の充実のため、河田雅圭教授の授業担当科目を追加。
- ・教育内容の充実のため、大隅典子教授、田中耕三教授、高井俊行教授及び佐藤修正准教授を担当教員に追加。
- ・山元大輔教授就任辞退により、兼任講師に変更。

【令和元年度】

- ・令和元年11月竹内秀明教授就任。
- ・石塚徹講師退職により、常松友美助教に変更。
- ・藤田尚信助教退職により、松井貴英助教に変更。
- ・令和元年11月安齋賢助教就任。
- ・山元大輔講師退職。他に担当教員がいるため支障なし。

【令和2年度】

- ・田中雅史助教退職。他に担当教員がいるため支障なし。後任は令和2年度中に採用予定。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
4	3	3
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設 置 時 の 計 画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
11	3	0	12	26	0	11	2	0	11	24	0
(10)	(2)	(1)	(5)	(18)	0						
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数				研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			
11	15	0				11	13	0			
(10)	(8)	(0)									
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
11	2	0	11	24	0	11	2	0	12	25	0
[0]	[Δ1]	[0]	[Δ1]	[Δ2]	[0]	[0]	[Δ1]	[0]	[0]	[Δ1]	[0]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数				研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			
11	13	0				11	14	0			
[0]	[Δ2]	[0]									

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受理済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員の うち、定年を延長し て採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{24}{26} = \boxed{92.3} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{0}{24} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C'）}}{\text{設置時の計画（A'）}} = \frac{0}{0} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	教授	山元 大輔	H30.3	必修	課題研究B（脳生化学統御科学）	①	H30.3.31付け他機関に就職のため就任辞退（30）						
2	助教	佐藤 耕世	H30.3	必修	課題研究B（脳生化学統御科学）	①	H30.3.31付け他機関に就職のため就任辞退（30）						
3	助教	久保田 幸彦	H30.3	必修	課題研究B（脳生化学統御科学）	①	H30.3.31付け他大学に就職のため就任辞退（30）						
4	助教	永井 友朗	H30.3	必修	課題研究B（脳生化学統御科学）	①	H30.3.31付け他大学に就職のため就任辞退（30）						
5	助教	松本 健	H30.3	必修	課題研究B（脳生化学統御科学）	①	H30.3.31付け学内異動により就任辞退（30）						
合 計（D）						後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
5	人	必修	5	科目	必修	5	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	5	科目	計	5	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	講師	石塚 徹	H31.3	必修	課題研究B(脳生化学統御科学)	①	H31.3.31付け一身上の都合のため辞任（元）			
2	助教	藤田 尚信	H31.2	必修	課題研究B(脳生化学統御科学)	①	H31.2.28付け他大学に就職のため辞任（元）			
3	助教	田中 雅史	R2.3	必修	課題研究B(脳生化学統御科学)	③	R2.3.31付け他大学に就職のため辞任（2）			
合 計（F）						後任補充状況の集計（G）				
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）
3	人	必修	3	科目	必修	2	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	3	科目	計	2	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合 計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)
8	人	必修	8	科目	必修	7	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	8	科目	計	7	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-(3)合計(D)+(F)}{(2)-(2)設置時の計画(A)} = \frac{8}{26} = 30.76 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別		担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
		該当なし											
合 計						後任補充状況の集計							
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「大学の所見」
 必修科目の課題研究B(脳生命統御科学)は、専攻の教員が全員が担当する科目であるため、教育上の支障はない。
 「学生への周知方法」
 学生への周知方法については毎年学生便覧に掲載し、学生が授業を担当する教員を確認できるようにしている。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。） と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を 全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<生命科学研究所 脳生命統御科学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

FDは教員会議並びに専攻会議、教員個人評価は評価委員会、授業評価は教務委員会並びに教授会で実施する。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

- ・教員会議（不定期開催、年2回）、専攻会議（年1回、年度末に定例会議と不定期開催）
- ・教員個人評価会議（不定期、年1回は自己評価報告書の提出）
- ・教授会（年12回、定期開催）、教務委員会（不定期 年4回程度）

c 委員会の審議事項等

教務委員会において学生の授業評価などのアンケート調査を分析し、それらをもとに教員の資質の維持向上の方策を検討する。運営機構でさらに審議した後に、教授会において方針を決定し、教員会議において全教員への方策を報告し実践する。

教育活動（研究指導含む）並びに研究活動に関する自己評価を、基幹講座に属する全教員から年1回提出させ、運営機構で教員の資質の維持向上についての状況を確認している。

② 実施状況

a 実施内容

- ・毎年、研究不正及び倫理教育のe-ラーニングコースを受講させ、公正な研究活動の推進に努めている。
- ・毎年、教員会議においても、研究倫理・研究不正防止・ハラスメント防止・学生指導法について専門の講師を招きFDを実施している。

b 実施方法

- ・研究科に所属する全教員参加の教員会議
- ・他部局と合同で新人教育研修会に参加。
- ・本学ISTUインターネットスクール（e-ラーニング）を利用
- ・学生による授業評価等は紙面による

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・新人教育は、4月及びISTU（講義動画）受講により実施。
- ・教員会議 研究科所属の全教員 令和元年7月17日（水）実施（出席者：58名）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・FDの内容を踏まえ、授業改善及び学生への研究指導に活かすよう、改善に取り組んでいる。
- ・授業評価の結果を踏まえ、各教員は授業の改善に向けて取り組んでいる。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・有：年1回（2月下旬）

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・教員：教授会 学生：掲示及びホームページ

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

研究科では、これまでの強みをさらに発展させ、「生命現象の包括的・統合的な理解」と「人類の福祉への貢献」の両立を目指し、本学はもとより、広く国内外から多彩な大学院学生を受け入れ、前期課程では、生命・環境・情報倫理、社会的責任についての深い理解とバイオ産業界の基礎的な状況や知識をもち、生命科学の広い領域を俯瞰し、各専攻領域の基礎的な研究力を身につけた人材を育成している。後期課程では、高度な研究者として研究を企画・実践する能力に加え、高度な実践的研究力をもった人材の育成、さらに高度な専門性を持った上で、企業、自治体、教育機関、研究機関などで活躍できる実践力を持つ人材を育成している。これらの目的を達成するために、今回の改組により新3専攻として、「脳生命統御科学専攻」、「生態発生適応科学専攻」、「分子化学生物学専攻」を設置した。

「脳生命統御科学専攻」では、こころとからだをコントロールする「脳」を中心に、細胞集団が生命を統御する仕組みについて教育研究する組織体制を構築した。「脳・神経」の挑戦的分野は「ヒトの理解につながる生物学、医療・福祉（疾患）、ヒトと社会」のいずれにも深く関連しており、高齢化が深刻な現代社会において、健康や医療を通して人類社会に貢献できる人材の育成に取り組んでいる。令和元年度には個体認知と社会適応の教育研究を推進する「分子行動分野」を創設し、高次の脳活動に関する研究分野を強化した。

「生態発生適応科学専攻」では、生態学-発生学-進化学の新しいアプローチから生物の発生・再生から環境問題の解決までを目指した教育研究を実施している。多様な生命現象はゲノムと生物内外の環境との相互作用によって創出されることから、ゲノム・生物個体・生物集団に内在する複雑な相互作用を明らかにすることで、様々な環境やその変動が生態系へ及ぼす影響を統合的に理解する研究を推進している。令和2年度には植物科学の先端的研究を行う研究分野2分野を新たに設置する予定で教授選考が進行中である。

「分子化学生物学専攻」では、低分子化合物から核酸やタンパク質を含めた生体高分子が生体内で作用する機序を明らかにすることから生命現象の本質的な理解に迫り、生命現象を制御する方法論の創出と分子とゲノムの利活用を目指す教育研究を実施している。本改組に伴い新たにバイオインフォマティクスを中心とした教育研究分野「進化ゲノミクス分野」を創設し、ゲノム進化や比較ゲノムなどビックデータ解析を含めた時代の要請に応じた教育研究を展開している。

今回の改組で新たに設けた専攻横断的な教育カリキュラム「バイオ人材育成カリキュラム」では、各専攻において培った生命科学全般における基盤知識と高度な専門性に加えて、企業・起業・自治体・NGO・研究機関・教育機関など、バイオ産業界や自然や生命を活用した持続的社会的構築に対し、実践的に指導的立場で活躍できるバイオ人材を育成している。さらに、「博士バイオ人材育成」の取組として、博士後期課程の大学院生に対するキャリア支援を強化し、キャリア相談会の定期開催、および、個別の就職支援・キャリア形成相談を行っている。これらの取り組みにより、博士前期課程学生の進学意欲向上や、博士後期課程学生の多様なキャリア選択に効果が表れはじめている。

部局横断的な取り組みとして、国際共同大学院プログラム「データ科学プログラム」および「Neuro Globalプログラム」、また令和元年度には「未来型医療創造卓越大学院プログラム」もそれぞれ順調にスタートし、多くの学生の参加・履修が行われている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和3年頃 公表予定

b 公表方法

- ・外部評価を実施するため自己点検・評価報告書を刊行し、外部評価委員及び研究科所属の教職員に配布するとともに、ホームページ上に公開の予定。

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和4年度までに評価機関の評価を受けるべく、学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

a 公表予定の有無 [☒ 有 ・ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [・ その他（ ）]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

国立大学法人東北大学

(2) 大 学 名

東北大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

〒980-8577

宮城県仙台市青葉区片平2丁目1番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
学 長	(オオノ ヒデオ) 大野 英男 (平成30年4月)		
研究科長	(ヒガシタニ アツシ) 東谷 篤志 (平成27年4月)	(スギモト アサコ) 杉本 亜砂子 (平成31年4月)	任期満了のため平成31年4月1日付けで変更(元)
専 攻 長	(ウラベ ジョウタロウ) 占部 城太郎 (平成30年4月)	(キョウヅカ ジュンコ) 経塚 淳子 (平成31年4月)	交代のため平成31年4月1日付けで変更(元)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)

令和2年度に報告する内容 → (2)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
生命科学研究科 生態発生適応科学専攻 (博士後期課程) 博士(生命科学)	理学関係 農学関係 医学関係	3年	10人	年次人	30人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員 超過率	開設年度から報告 年度までの平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	10 (-) [-]		10 (-) [-]		10 (-) [-]		0.80倍	—	令和2年10月 入学を実施予定
志願者数	7 (0) [1]	3 (0) [3]	7 (0) [0]	2 (0) [2]	6 (0) [0]				
受験者数	7 (0) [1]	3 (0) [3]	7 (0) [0]	2 (0) [2]	6 (0) [0]				
合格者数	6 (0) [1]	3 (0) [3]	7 (0) [0]	2 (0) [2]	6 (0) [0]				
B 入学者数	6 (0) [1]	3 (0) [3]	7 (0) [0]	2 (0) [2]	6 (0) [0]				
入学定員超過率 B/A	0.90		0.90		0.60				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	6 [1] (-)	3 [3] (-)	7 [0] (-)	2 [2] (-)	6 [0] (-)	2 [2] (-)	
2年次			6 [1] (-)	3 [3] (-)	7 [0] (-)	3 [3] (-)	
3年次					6 [1] (-)	[] ()	
計	9 [4] (-)		18 [6] (-)		24 [6] (-)		

・令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内 訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	9 人	0 人	平成30年度	0 人	0 人	
令和元年度	18 人	0 人	平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
令和2年度	24 人	0 人	平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
- (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
- ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{9} = \boxed{0} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{18} = \boxed{0} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{24} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<生命科学研究所 生態発生適応科学専攻（後期課程）>

（1）－① 授業科目表

【事前伺い時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	課題研究B(生態発生適応科学)	1・2・3通	8			12	4	1	13		兼2
	イノベーションセミナー	1前・後	1								兼1
	起業支援論	1前・後		2		1					
	バイオ産業実践科目	2前・後		2							兼1
	小計(4科目)	－	9	4		12	4	1	13		兼4
	合計(4科目)	－	9	4		12	4	1	13		兼4
修了要件及び履修方法											
必修科目9 単位を修得すること。											

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	課題研究B(生態発生適応科学)	1・2・3通	8			10	3		14		兼3
	イノベーションセミナー	1前・後	1			1					兼1
	起業支援論	1前・後		2		1					
	バイオ産業実践科目	2前・後		2		1					兼2
	小計(4科目)	－	9	4		10	3		14		兼5
	合計(4科目)	－	9	4		10	3		14		兼5
修了要件及び履修方法											
必修科目9 単位を修得すること。											

【平成30年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	課題研究B(生態発生適応科学)	1・2・3通	8			10	4	1	14		兼2
	イノベーションセミナー	1前・後	1			1					兼1
	起業支援論	1前・後		2		1					
	バイオ産業実践科目	2前・後		2		1					兼2
	小計(4科目)	－	9	4		10	4	1	14		兼4
合計(4科目)			－	9	4	10	4	1	14		兼4
修了要件及び履修方法											
必修科目9単位を修得すること。											

【令和元年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	課題研究B(生態発生適応科学)	1・2・3通	8			10	3		15		兼2
	イノベーションセミナー	1前・後	1			1					兼1
	起業支援論	1前・後		2		1					
	バイオ産業実践科目	2前・後		2		1					兼2
	小計(4科目)	－	9	4		10	3		15		兼4
合計(4科目)			－	9	4	10	3		15		兼4
修了要件及び履修方法											
必修科目9単位を修得すること。											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。
 - ・ (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・助教1名採用及び事前伺い時の記載誤りのため、「課題研究B（生態発生適応科学）」の専任教員等の配置を「教授12、助教13」から「教授10、助教14」に変更。
- ・教育内容の充実のため、「イノベーションセミナー」の専任教員等の配置に「教授1」を追加。
- ・教育内容の充実のため、「バイオ産業実践科目」の専任教員等の配置を「兼1」から「教授1、兼2」へ変更。

【令和元年度】

- ・准教授1名退職、助教1名採用及び担当教員見直しのため、「課題研究B（生態発生適応科学）」の専任教員等の配置を「准教授4、講師1、助教14」から「准教授3、助教15」に変更。

【令和2年度】

- ・助教3名退職、助教2名採用及び教育内容の充実のため、「課題研究B（生態発生適応科学）」の専任教員等の配置を「助教15、兼2」から「助教14、兼3」に変更。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計（A）	必修	選択	自由	計	
2 科目	2 科目	0 科目	4 科目	2 科目 [0]	2 科目 [0]	0 科目 [0]	4 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{4} = \boxed{} 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	
	校 舎 敷 地	21,917,049㎡ 21,915,365㎡ 22,010,146㎡	0㎡	0㎡	21,917,049㎡ 21,915,365㎡ 22,010,146㎡	購入のため(2) 一部売却のため(元)
	運動場用地	132,573㎡	0㎡	0㎡	132,573㎡	
	小 計	22,049,622㎡ 22,047,938㎡ 22,142,719㎡	0㎡	0㎡	22,049,622㎡ 22,047,938㎡ 22,142,719㎡	
	そ の 他	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡	
	合 計	22,049,622㎡ 22,047,938㎡ 22,142,719㎡	0㎡	0㎡	22,049,622㎡ 22,047,938㎡ 22,142,719㎡	
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	
		1,119,573㎡ 1,121,513㎡ 1,152,992㎡ (1,152,992㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	1,119,573㎡ 1,121,513㎡ 1,152,992㎡ (1,152,992㎡)	一部取り壊しのため(2) 一部取り壊しのため(元)
(3) 教 室 等		講 義 室 3室	演 習 室 0室	実験実習室 57室	情報処理学習施設 0室 (補助職員 0人)	語学学習施設 0室 (補助職員 0人)
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称 生命科学研究所生態発生適応科学専攻			室 数 14 室	
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点
	生命科学研究所 生態発生適応科 学専攻	4,180,950 (1,974,780) 4,168,468 (1,974,876) 4,142,543 (1,970,596) (4,180,950 (1,974,780)) (4,168,468 (1,974,876)) (4,142,543 (1,970,596))	86,599 (42,652) 86,198 (42,422) 84,979 (42,100) (86,599 (42,652)) (86,198 (42,422)) (84,979 (42,100))	13,543 (13,528) 13,287 (13,272) 13,431 (13,416) (13,543 (13,528)) (13,287 (13,272)) (13,431 (13,416))	7,429 8,242 7,232 (7,429) (8,242) (7,232)	46,462 45,198 38,733 (46,462) (45,198) (38,733)
	計	4,180,950 (1,974,780) 4,168,468 (1,974,876) 4,142,543 (1,970,596) (4,180,950 (1,974,780)) (4,168,468 (1,974,876)) (4,142,543 (1,970,596))	86,599 (42,652) 86,198 (42,422) 84,979 (42,100) (86,599 (42,652)) (86,198 (42,422)) (84,979 (42,100))	13,543 (13,528) 13,287 (13,272) 13,431 (13,416) (13,543 (13,528)) (13,287 (13,272)) (13,431 (13,416))	7,429 8,242 7,232 (7,429) (8,242) (7,232)	46,462 45,198 38,733 (46,462) (45,198) (38,733)
(6) 図 書 館		面 積 37,050㎡ 45,481㎡	閱 覧 座 席 数 2,554席 2,885席 2,874席	収 納 可 能 冊 数 3,914,722冊 4,328,122冊 4,563,766冊	大学全体 一部改修中のため(2) 座席の新規購入及び書庫の収 容量の縮小のため(元)	
(7) 体 育 館		面 積 7,024㎡	体育館以外のスポーツ施設の概要 武道場			大学全体
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度
		教員 1 人 当 研究費等	千円	千円	図書購入費	千円
		共 同 研 究 費 等	千円	千円	設備購入費	千円
	学生 1 人 当 納付金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次
		千円	千円	千円	千円	千円
		学生納付金以外の維持方法の概要				

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はA-C対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称		東北大学										備 考
既設学部等の名称		修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入 学定員 超過率	令和2 年度入 学定員 超過率	定員変更 年度（AC 期間の学 科のみ）	開設 年度	所 在 地	
文学部	人文社会学科	4年	210人	— 年次人	840人	学士 （文学）	1.05倍	1.05倍	— 年度	平9年度 改組	宮城県仙台市青 葉区川内27番1号	
教育学部	教育科学科	4	70	—	280	学士 （教育学）	1.05	1.07	—	平10年度 改組	宮城県仙台市青 葉区川内27番1号	
法学部	法学科	4	160	—	640	学士 （法学）	1.05	1.04	—	昭24年度	宮城県仙台市青 葉区川内27番1号	
経済学部	経済学科	4	130	3年次 10	540	学士 （経済学）	1.04	1.03	—	昭24年度	宮城県仙台市青 葉区川内27番1号	
	経営学科	4	130	3年次 10	540				—	昭43年度		
	計		260	20	1,080				—	—		
理学部	数学科	4	45	—	180	学士 （理学）	0.97	0.97	—	昭24年度	宮城県仙台市青 葉区荒巻字青葉6 番3号	
	物理学科	4	78	—	312		1.00	1.00	—	平6年度 改組・統 合		
	宇宙地球物理学科	4	41	—	164				—	平4年度 改組		
	化学科	4	70	—	280		1.07	1.00	—	平7年度 改組・統 合		
	地圏環境科学科	4	30	—	120		1.01	1.02	—	平4年度 改組		
	地球惑星物質科学科	4	20	—	80				—	平4年度 改組（平 20年度 改称）		
	生物学科	4	40	—	160		1.03	1.05	—	昭24年度		
	計		324	—	1,296		1.01	1.00	—	—		
医学部	医学科	6	116	—	791	学士 （医学）	1.01	1.01	令和2	昭24年度	宮城県仙台市青 葉区星陵町2番1 号	令和2年度定員変 更（11）
	保健学科	4	144	—	576	学士 （看護学） 学士 （保健学）	1.00	0.98	—	平16年度 改組		
	計		279	—	1,386	—	1.01	1.00	—	—		
歯学部	歯学科	6	53	—	318	学士 （歯学）	1.00	1.00	—	昭40年度	宮城県仙台市青 葉区星陵町2番1 号	
薬学部	創薬科学科	4	60	—	240	学士 （創薬科学）	1.08	1.06	—	平18年度 改組	宮城県仙台市青 葉区荒巻字青葉6 番3号	
	薬学科	6	20	—	120	学士 （薬学）	1.07	1.05				
	計		80	—	360	—	1.07	1.06				

工学部	機械知能・航空工学科	4	234	—	936	学士 (工学)	1.01	0.95		平16年度改組	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6番6号				
	電気情報物理工学科	4	243	—	972		1.02	1.03		平16年度改組 (平19年度・平27年度改称)					
	化学・バイオ工学科	4	113	—	452		0.99	1.01		平16年度改組					
	材料科学総合学科	4	113	—	452		1.01	1.02							
	建築・社会環境工学科	4	107	—	428		1.00	1.01							
	計		810	—	3,240		1.01	1.00							
農学部	生物生産科学科	4	90	—	360	学士 (農学)	1.04	1.04		平4年度	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉468-1				
	応用生物化学科	4	60	—	240										
	計		150	—	600		1.04	1.04							
※ 複数の学科を有する学部の学生募集は、経済学部、薬学部及び農学部にあつては学部一括で、理学部にあつては1又は複数の学科毎にそれぞれ行い、学生の所属学科は、第1年次修了時、第2年次又は第3年次に決定する。															
文学研究科	日本文学専攻	5	29	—	58	修士 (文学) 修士 (学術) 博士 (文学) 博士 (学術)	1.18	1.24	令和元	令和元年度改組	宮城県仙台市青葉区川内27番1号	学生数は、上段が前期課程で、下段が後期課程である。			
			14	—	28		1.31	1.21	令和元						
	広域文化学専攻	5	29	—	58		0.84	0.68	令和元						
			12	—	24		0.95	1.16	令和元						
	総合人間学専攻	5	31	—	62		1.19	1.09	令和元	平11年度改組					
			12	—	24		1.08	1.16	令和元						
	文化科学専攻	5	—	—	—		—	—					平11年度改組		
	言語科学専攻	5	—	—	—		—	—							
歴史科学専攻	5	—	—	—	—	—		平12年度改組							
人間科学専攻	5	—	—	—	—	—									
教育学研究科	総合教育科学専攻	5	45	—	90	修士 (教育学) 修士 (教育情報学) 博士 (教育学) 博士 (教育情報学)	0.93	0.91		平30年度改組	宮城県仙台市青葉区川内27番1号				
			15	—	45	1.20	1.00	平成30							
法学研究科	法政理論研究専攻	5	10	—	20	修士 (法学) 修士 (学術) 博士 (法学) 博士 (学術)	0.95	0.60		平12年度改組 (平18年度改称)	宮城県仙台市青葉区川内27番1号	平成30年度定員変更 (△8)			
			12	—	36		0.63	0.66							
	総合法制専攻 (法科大学院の課程)	3	50	—	150	法務博士 (専門職)	0.82	1.04		平16年度改組	宮城県仙台市青葉区片平二丁目1番1号				
公共法政策専攻 (専門職学位課程)	2	30	—	60	公共法政策修士 (専門職)	1.06	1.00								

経済学研究科	経済経営学専攻	5	60	—	110	修士 (経済学) 修士 (経営学) 修士 (学術) 博士 (経済学) 博士 (経営学) 博士 (学術)	0.80	0.53		平17年 度改組	宮城県仙台市青 葉区川内27番1号	令和2年度定員変 更 (10)
			14	—	54		0.68	0.35				令和2年度定員変 更 (△6)
	会計専門職専攻 (専門職学位課程)	2	40	—	80	会計修士 (専門職)	0.87	0.75		平17年 度		
理学研究科	数学専攻	5	38	—	76	修士 (理学) 修士 (学術) 博士 (理学) 博士 (学術)	0.87	0.89		平7年度 改組	宮城県仙台市青 葉区荒巻字青葉6 番3号	
			18	—	54		0.57	0.44				
	物理学専攻	5	91	—	182		0.88	0.84		平6年度 改組		
			46	—	138		0.55	0.54				
	天文学専攻	5	9	—	18		1.11	1.22				
			4	—	12		0.66	0.50				
	地球物理学専攻	5	26	—	52		1.01	0.96				
			13	—	39		0.56	0.46				
	化学専攻	5	66	—	132		1.23	1.09		平7年度 改組		
			33	—	99		0.55	0.48				
	地学専攻	5	32	—	64		1.19	1.18		平6年度 改組		
			16	—	48		0.51	0.37				
医学系研究科	医科学専攻 (修士課程)	2	30	—	60	修士 (医科学) 修士 (学術)	1.16	1.00		平15年 度改組	宮城県仙台市青 葉区星陵町2番1 号	平成30年度定員 変更 (△2)
	医科学専攻 (博士課程)	4	130	—	520	博士 (医学) 博士 (学術)	1.09	1.01		平9年度 改組		
	障害科学専攻	5	20	—	40	修士 (障害科学) 修士 (学術) 博士 (障害科学) 博士 (学術)	0.82	0.65		平6年度 改組		
			9	—	27	1.14	0.33		平8年度 改組			
	保健学専攻	5	32	—	64	修士 (看護学) 修士 (保健学) 修士 (学術) 博士 (看護学) 博士 (保健学) 博士 (学術)	1.20	1.25		平20年 度改組		
			12	—	36	1.11	1.00		平22年 度改組			
	公衆衛生学専攻 (修士課程)	2	10	—	20	修士 (公衆衛生学)	1.15	1.20		平27年 度		
歯学研究科	歯科学専攻 (修士課程)	2	8	—	14	修士 (口腔科学) 修士 (学術)	1.06	1.12		平16年 度	宮城県仙台市青 葉区星陵町4番1 号	令和2年度定員変 更 (2)
	歯科学専攻 (博士課程)	4	42	—	168	博士 (歯学) 博士 (学術)	0.94	0.73		平12年 度改組		

薬学研究科	分子薬科学専攻	5	22	—	44	修士 (薬科学) 修士 (学術) 博士 (薬科学) 博士 (学術)	1.26	1.22		平22年度	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6番3号	
			8	—	24		0.66	0.75				
	生命薬科学専攻	5	32	—	64		0.96	0.87				
			10	—	30		0.73	1.00				
	医療薬学専攻 (博士課程)	4	4	—	16	博士 (薬学) 博士 (学術)	0.50	0.75		平24年度		
工学部	機械機能創成専攻	5	42	—	84	修士 (工学) 修士 (学術) 博士 (工学) 博士 (学術)	1.39	1.45		平7年度改組 (平16年度改称・平28年度改称)	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6番6号	
			10	—	30		1.23	1.20				
	ファインメカニクス専攻	5	45	—	90		1.10	0.93				
			11	—	33		0.45	0.18				
	ロボティクス専攻	5	42	—	84		0.88	0.69		平15年度 (平28年度改称)		
			11	—	33		0.69	0.36				
	航空宇宙工学専攻	5	42	—	84		1.51	1.42		平7年度改組		
			11	—	33		1.05	1.09				
	量子エネルギー工学専攻	5	38	—	76		1.12	1.10		昭33年度 (平8年度改称)		
			11	—	33		0.84	0.63				
	電気エネルギーシステム専攻	5	32	—	64		1.18	1.31		平24年度		
			8	—	24		0.29	0.25				
	通信工学専攻	5	31	—	62		1.43	1.29				
			8	—	24		0.91	0.75				
	電子工学専攻	5	51	—	102		0.87	0.88		昭28年度		
			15	—	45		0.26	0.20				
	応用物理学専攻	5	32	—	64		0.93	0.78				
			11	—	33		0.72	0.54				
応用化学専攻	5	26	—	52	0.93	0.76						
		8	—	24	0.70	0.37						
化学工学専攻	5	34	—	68	1.05	1.05		昭40年度				
		7	—	21	0.51	0.42						
バイオ工学専攻	5	19	—	38	1.21	1.21		平4年度 (平16年度改称)				
		5	—	15	0.66	0.60						
金属フロンティア工学専攻	5	26	—	52	1.18	1.11		昭28年度 (平16年度改称)				
		7	—	21	1.09	0.71						
知能デバイス材料学専攻	5	37	—	74	1.18	1.10		昭39年度 (昭62年度・平16年度改称)				
		10	—	30	1.16	0.70						
材料システム工学専攻	5	30	—	60	1.13	1.06		昭44年度 (平9年度・平16年度改称)				
		8	—	24	0.91	0.75						
土木工学専攻	5	43	—	86	1.23	1.13		昭38年度				
		12	—	36	1.38	1.08						
都市・建築学専攻	5	45	—	90	1.16	1.15		昭38年度 (平8年度改称)				
		8	—	24	1.28	0.87						
技術社会システム専攻	5	21	—	42	1.11	1.14		平14年度				
		13	—	39	0.32	0.30						

農学研究科	資源生物科学専攻	5	36	—	72	修士 (農学) 修士 (学術) 博士 (農学) 博士 (学術)	1.30	1.22		平15年 度改組	宮城県仙台市青 葉区荒巻字青葉 468-1	
			13	—	39		0.99	0.76				
	応用生命科学専攻	5	35	—	70		1.15	1.08				
			13	—	39		0.50	0.30				
	生物産業創成科学 専攻	5	38	—	76		1.28	1.36				
			11	—	33		1.14	0.63				
国際文化研究科	国際文化研究専攻	5	35	—	70	修士 (国際文化) 修士 (学術) 博士 (国際文化) 博士 (学術)	0.90	1.00		平27年 度改組	宮城県仙台市青 葉区川内41	
			16	—	48		0.74	0.43				
情報科学研究科	情報基礎科学専攻	5	38	—	76	修士 (情報科学) 修士 (学術) 博士 (情報科学) 博士 (学術)	0.97	1.00		平5年度	宮城県仙台市青 葉区荒巻字青葉6 番3号	
			11	—	33		0.57	0.27				
	システム情報科学 専攻	5	37	—	74		1.25	1.24				
			11	—	33		1.26	0.81				
	人間社会情報科学 専攻	5	30	—	60		0.68	0.56				
			10	—	30		0.80	1.00				
生命科学研究科	脳生命統御科学専 攻	5	36	—	72	修士 (生命科学) 修士 (学術) 博士 (生命科学) 博士 (学術)	0.85	0.77		平30年 度改組	宮城県仙台市青 葉区片平二丁目1 番1号	
			10	—	30		0.50	0.40				
	生態発生適応科学 専攻	5	35	—	70		0.78	0.62				
			10	—	30		0.80	0.60				
	分子化学生物学専 攻	5	35	—	70		1.22	1.22				
			10	—	30		0.70	0.70				
環境科学研究科	先進社会環境学専 攻	5	40	—	80	修士 (環境科学) 修士 (学術) 博士 (環境科学) 博士 (学術)	1.11	1.05		平27年 度改組	宮城県仙台市青 葉区荒巻字青葉 468-1	
			13	—	39		1.07	0.38				
	先端環境創成学専 攻	5	60	—	120		0.93	0.91				
			20	—	60		0.60	0.50				
医工学研究科	医工学専攻	5	39	—	78	修士 (医工学) 修士 (学術) 博士 (医工学) 博士 (学術)	1.17	1.05		平20年 度	宮城県仙台市青 葉区星陵町2番1 号 宮城県仙台市青 葉区荒巻字青葉6 番6号 宮城県仙台市青 葉区片平二丁目1 番1号	平成30年度定員 変更(2)
			12	—	36		1.05	1.00				

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<生命科学研究所 生態発生適応科学専攻（後期課程）>

（１）－① 担当教員表

【事前伺い時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	経塚 淳子 (57) <平成30年4月> 博士(農学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	倉永 英里奈 (42) <平成30年4月> 博士(医学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	田村 宏治 (51) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	占部 城太郎 (58) <平成30年4月> 理学博士
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	彦坂 幸毅 (49) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	河田 雅圭 (59) <平成30年4月> 農学博士
		起業支援論 課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	近藤 倫生 (43) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	牧 雅之 (54) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	千葉 聡 (56) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	熊野 岳 (46) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	准教授	藤井 伸治 (50) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	准教授	鹿野 秀一 (63) <平成30年4月> 理学博士
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	准教授	美濃川 拓哉 (48) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(生態発生適応科学)

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	経塚 淳子 (57) <平成30年4月> 博士(農学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	倉永 英里奈 (42) <平成30年4月> 博士(医学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	田村 宏治 (52) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	占部 城太郎 (60) <平成30年4月> 理学博士
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	彦坂 幸毅 (50) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	河田 雅圭 (60) <平成30年4月> 農学博士
		イノベーションセミナー 起業支援論 バイオ産業実践科目 課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	近藤 倫生 (44) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	牧 雅之 (55) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	千葉 聡 (57) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	熊野 岳 (47) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	准教授	藤井 伸治 (51) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	准教授	鹿野 秀一 (64) <平成30年4月> 理学博士
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	准教授	美濃川 拓哉 (49) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(生態発生適応科学)

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	経塚 淳子 (59) <平成30年4月> 博士(農学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	倉永 英里奈 (44) <平成30年4月> 博士(医学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	田村 宏治 (53) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	占部 城太郎 (60) <平成30年4月> 理学博士
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	彦坂 幸毅 (51) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	河田 雅圭 (61) <平成30年4月> 農学博士
		イノベーションセミナー 起業支援論 バイオ産業実践科目 課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	近藤 倫生 (45) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	牧 雅之 (56) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	千葉 聡 (58) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	熊野 岳 (48) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	准教授	藤井 伸治 (52) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	准教授	
専	准教授	美濃川 拓哉 (50) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(生態発生適応科学)

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	経塚 淳子 (60) <平成30年4月> 博士(農学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	倉永 英里奈 (45) <平成30年4月> 博士(医学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	田村 宏治 (54) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	占部 城太郎 (61) <平成30年4月> 理学博士
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	彦坂 幸毅 (52) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	河田 雅圭 (62) <平成30年4月> 農学博士
		イノベーションセミナー 起業支援論 バイオ産業実践科目 課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	近藤 倫生 (46) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	牧 雅之 (57) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	千葉 聡 (59) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	教授	熊野 岳 (49) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	准教授	藤井 伸治 (53) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(生態発生適応科学)
専	准教授	
専	准教授	美濃川 拓哉 (51) <平成30年4月> 博士(理学)
		課題研究B(生態発生適応科学)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 <就任（予定）年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	酒井 聡樹 (56) <平成30年4月> 理学博士
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	講師	横山 隆亮 (49) <平成30年4月> 博士（理学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	楢本 悟史 (39) <平成30年4月> 博士（理学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	梅津 大輝 (41) <平成30年4月> 博士（理学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	小林 啓恵 (39) <平成30年4月> 博士（生命科学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	阿部 玄武 (38) <平成30年4月> 博士（生命科学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	黒羽 剛 (40) <平成30年4月> 博士（理学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	牧野 渡 (47) <平成30年4月> 博士（水産学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	小口 理一 (39) <平成30年4月> 博士（生命科学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	丸山 真一朗 (38) <平成30年4月> 博士（農学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	饗庭 正寛 (37) <平成30年4月> 博士（理学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	米倉 浩司 (45) <平成30年4月> 博士（理学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	大山 幹成 (47) <平成30年4月> 博士（農学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	武田 哲 (61) <平成30年4月> 理学博士
		課題研究B（生態発生適応科学）

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 <就任（予定）年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	酒井 聡樹 (57) <平成30年4月> 理学博士
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	講師	横山 隆亮 (50) <平成30年4月> 博士（理学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	楢本 悟史 (40) <平成30年4月> 博士（理学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	梅津 大輝 (42) <平成30年4月> 博士（理学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	小林 啓恵 (40) <平成30年4月> 博士（生命科学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	阿部 玄武 (39) <平成30年4月> 博士（生命科学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	黒羽 剛 (41) <平成30年4月> 博士（理学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	牧野 渡 (48) <平成30年4月> 博士（水産学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	小口 理一 (40) <平成30年4月> 博士（生命科学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	丸山 真一朗 (40) <平成30年4月> 博士（農学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	饗庭 正寛 (38) <平成30年4月> 博士（理学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	米倉 浩司 (46) <平成30年4月> 博士（理学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	大山 幹成 (48) <平成30年4月> 博士（農学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	武田 哲 (62) <平成30年4月> 理学博士
		課題研究B（生態発生適応科学）

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 <就任（予定）年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	酒井 聡樹 (58) <平成30年4月> 理学博士
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	楢本 悟史 (41) <平成30年4月> 博士（理学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	梅津 大輝 (43) <平成30年4月> 博士（理学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	小林 啓恵 (41) <平成30年4月> 博士（生命科学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	阿部 玄武 (40) <平成30年4月> 博士（生命科学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	牧野 渡 (49) <平成30年4月> 博士（水産学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	小口 理一 (41) <平成30年4月> 博士（生命科学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	丸山 真一朗 (40) <平成30年4月> 博士（農学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	饗庭 正寛 (39) <平成30年4月> 博士（理学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	米倉 浩司 (47) <平成30年4月> 博士（理学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	大山 幹成 (49) <平成30年4月> 博士（農学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	武田 哲 (63) <平成30年4月> 理学博士
		課題研究B（生態発生適応科学）

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 <就任（予定）年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	酒井 聡樹 (59) <平成30年4月> 理学博士
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	梅津 大輝 (44) <平成30年4月> 博士（理学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	小林 啓恵 (42) <平成30年4月> 博士（生命科学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	阿部 玄武 (41) <平成30年4月> 博士（生命科学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	牧野 渡 (50) <平成30年4月> 博士（水産学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	小口 理一 (42) <平成30年4月> 博士（生命科学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	丸山 真一朗 (41) <平成30年4月> 博士（農学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	大山 幹成 (50) <平成30年4月> 博士（農学）
		課題研究B（生態発生適応科学）
専	助教	武田 哲 (64) <平成30年4月> 理学博士
		課題研究B（生態発生適応科学）

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	助教	中本 章貴 (42) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究Ⅱ（生態発生適応科学）	専	助教	中本 章貴 (42) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究Ⅱ（生態発生適応科学）	専	助教	中本 章貴 (44) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究Ⅱ（生態発生適応科学）	専	助教	中本 章貴 (45) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究Ⅱ（生態発生適応科学）
				助教	小松 愛乃 (33) ＜平成30年4月＞ 博士（生命科学） 課題研究Ⅱ（生態発生適応科学）		助教	小松 愛乃 (34) ＜平成30年4月＞ 博士（生命科学） 課題研究Ⅱ（生態発生適応科学）		助教	小松 愛乃 (35) ＜平成30年4月＞ 博士（生命科学） 課題研究Ⅱ（生態発生適応科学）
							助教	川津 一隆 (36) ＜平成31年4月＞ 博士（農学） 課題研究Ⅱ（生態発生適応科学）		助教	川津 一隆 (37) ＜平成31年4月＞ 博士（農学） 課題研究Ⅱ（生態発生適応科学）
							助教	平野 尚浩 (30) ＜令和元年10月＞ 博士（生命科学） 課題研究Ⅱ（生態発生適応科学）		助教	平野 尚浩 (31) ＜令和元年10月＞ 博士（生命科学） 課題研究Ⅱ（生態発生適応科学）
										助教	伊東 拓朗 (29) ＜令和2年5月＞ 博士（学術） 課題研究Ⅱ（生態発生適応科学）
										助教	亀岡 啓 (33) ＜令和2年6月＞ 博士（農学） 課題研究Ⅱ（生態発生適応科学）
兼任	教授	木下 賢吾 (46) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究Ⅱ（生態発生適応科学）	兼任	教授	木下 賢吾 (47) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究Ⅱ（生態発生適応科学）	兼任	教授	木下 賢吾 (48) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究Ⅱ（生態発生適応科学）	兼任	教授	木下 賢吾 (49) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究Ⅱ（生態発生適応科学）
兼任	教授	東谷 篤志 (54) ＜平成30年4月＞ 理学博士 イノベーションセミナー バイオ産業実践科目	兼任	教授	東谷 篤志 (55) ＜平成30年4月＞ 理学博士 イノベーションセミナー バイオ産業実践科目	兼任	教授	東谷 篤志 (56) ＜平成30年4月＞ 理学博士 イノベーションセミナー バイオ産業実践科目	兼任	教授	東谷 篤志 (57) ＜平成30年4月＞ 理学博士 イノベーションセミナー バイオ産業実践科目
兼任	准教授	佐藤 修正 (52) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） バイオ産業実践科目	兼任	准教授	佐藤 修正 (53) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） バイオ産業実践科目	兼任	准教授	佐藤 修正 (54) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） バイオ産業実践科目	兼任	准教授	佐藤 修正 (55) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） バイオ産業実践科目
兼任	講師	中静 透 (61) ＜平成30年4月＞ 理学博士 課題研究Ⅱ（生態発生適応科学）	兼任	講師	中静 透 (62) ＜平成30年4月＞ 理学博士 課題研究Ⅱ（生態発生適応科学）	兼任	講師	中静 透 (63) ＜平成30年4月＞ 理学博士 課題研究Ⅱ（生態発生適応科学）	兼任	講師	陀安 一郎 (60) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 課題研究Ⅱ（生態発生適応科学）
兼任	講師	石井 勲一郎 (60) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 課題研究Ⅱ（生態発生適応科学）	兼任	講師	石井 勲一郎 (60) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 課題研究Ⅱ（生態発生適応科学）	兼任	講師	石井 勲一郎 (60) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 課題研究Ⅱ（生態発生適応科学）	兼任	講師	石井 勲一郎 (60) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 課題研究Ⅱ（生態発生適応科学）

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
- ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
- ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
- ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、結めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・教育内容の充実のため、河田雅圭教授の授業担当科目を追加。
- ・平成30年4月小松愛乃助教及び佐藤修正准教授就任。教育内容充実のための担当者増。

【令和元年度】

- ・鹿野秀一准教授退職。他に担当教員がいるため支障なし。
- ・横山隆亮講師他専攻へ配置換え。他に担当教員がいるため支障なし。
- ・黒羽剛助教退職のため、川津一隆助教に変更。
- ・令和元年10月平野尚浩助教就任。

【令和2年度】

- ・楢本悟史助教退職のため、亀岡啓助教に変更。
- ・饗庭正寛助教退職。他に担当教員がいるため支障なし。
- ・米倉浩司助教退職のため、伊東拓朗助教に変更。
- ・中静透講師退職のため、陀安一郎講師及び石井励一郎講師に変更。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（ＡＣ教員審査）を受けてください。**ＡＣ教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（ＡＣ）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2)－① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
4	3	3
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2)－② 専任教員等数【大学院】

設 置 時 の 計 画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
12	4	1	13	30	0	10	3	0	12	25	0
(10)	(4)	(1)	(14)	(29)	0						
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数				
12	18	0			10	15	0				
(10)	(19)	(0)									
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
10	3	0	14	27	0	11	3	0	15	29	0
[Δ2]	[Δ1]	[Δ1]	[+1]	[Δ3]	[0]	[Δ1]	[Δ1]	[Δ1]	[+2]	[Δ1]	[0]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数				
10	17	0			11	18	0				
[Δ2]	[Δ1]	[0]			[Δ1]	[0]	[0]				

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2)－③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員の うち、定年を延長し て採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)－④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{27}{30} = \boxed{90} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)－⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{0}{25} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)－⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C'）}}{\text{設置時の計画（A'）}} = \frac{0}{0} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞任（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし								
合計（D）					後任補充状況の集計（E）					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞任（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞任（未就任）の理由」に就任辞任の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
1	助教	黒羽 剛	H31. 3	必修	課題研究 B（生物発生適応科学）	①	H31. 3. 31付け他機関に就職のため辞任（元）						
2	助教	楢本 悟史	R2. 3	必修	課題研究 B（生物発生適応科学）	①	R2. 3. 31付け他大学に就職のため辞任（2）						
3	助教	饗庭 正寛	R元. 9	必修	課題研究 B（生物発生適応科学）	③	R元. 9. 30付け他機関に就職のため辞任（2）						
4	助教	米倉 浩司	R元. 11	必修	課題研究 B（生物発生適応科学）	①	R元. 11. 11付け他機関に就職のため辞任（2）						
合計（F）						後任補充状況の集計（G）							
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
4	人	必修	4	科目	必修	3	科目	必修	0	科目	必修	1	科
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科
		計	4	科目	計	3	科目	計	0	科目	計	1	科

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）＋（F）				後任補充状況の集計（E）＋（G）									
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）				
4	人	必修	4	科目	必修	3	科目	必修	0	科目	必修	1	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	4	科目	計	3	科目	計	0	科目	計	1	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{4}{30} = 13.33 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由							
1	准教授	鹿野 秀一	必修	課題研究B（生態発生適応科学）	③	H31.3.31付け65歳で定年退職（元）							
合計					後任補充状況の集計								
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）				
1	人	必修	1	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	1	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	1	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	1	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「大学の所見」 必修科目の課題研究B (生態発生適応科学) は、専攻の教員が全員が担当する科目であるため、教育上の支障はない。 「学生への周知方法」 学生への周知方法については毎年学生便覧に掲載し、学生が授業を担当する教員を確認できるようにしている。

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (令和元年)	専任教員が設置計画から減少しているため、 提示された教員の採用 計画を確実に履行する よう努めること。	指摘事項 (改善) 現在、今年度中の早期の採用に向けて、教授1名及び 助教1名の採用を進めている。 また、設置計画履行状況調査時(令和元年)から現在 (R2.5.1)までに助教3名 が辞職したものの、速やか に採用を進め、R2.6.1まで に3名が採用済又は採用を 決定した。 辞職等をした教員が担当し ている授業科目の実施に十 分な授業担当教員数を配置 しており、学生の教育研究 指導に支障が生じないよう 配慮している。	履行中 履行状況欄に記載した教員の 採用計画を予定どおり実 施し、また、辞職等があっ た場合にも速やかに後任者 の採用を行い、引き続き、 設置計画の履行に努めると ともに、学生の教育研究指 導に支障が生じないよう十 分に配慮を行っていくこと とする。

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は
寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、
具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**
全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。
その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

＜生命科学研究科 生態発生適応科学専攻＞

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）
及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

FDは教員会議並びに専攻会議、教員個人評価は評価委員会、授業評価は教務委員会並びに教授会で実施する。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

- ・教員会議（不定期開催、年2回）、専攻会議（年1回、年度末に定例会議と不定期開催）
- ・教員個人評価会議（不定期、年1回は自己評価報告書の提出）
- ・教授会（年12回、定期開催）、教務委員会（不定期 年4回程度）

c 委員会の審議事項等

教務委員会において学生の授業評価などのアンケート調査を分析し、それらをもとに教員の資質の維持向上の方策を検討する。運営機構でさらに審議した後に、教授会において方針を決定し、教員会議において全教員への方策を報告し実践する。

教育活動（研究指導含む）並びに研究活動に関する自己評価を、基幹講座に属する全教員から年1回提出させ、運営機構で教員の資質の維持向上についての状況を確認している。

② 実施状況

a 実施内容

- ・毎年、研究不正及び倫理教育のe-ラーニングコースを受講させ、公正な研究活動の推進に努めている。
- ・毎年、教員会議においても、研究倫理・研究不正防止・ハラスメント防止・学生指導法について専門の講師を招きFDを実施している。

b 実施方法

- ・研究科に所属する全教員参加の教員会議
- ・他部局と合同で新人教育研修会に参加。
- ・本学ISTUインターネットスクール（e-ラーニング）を利用
- ・学生による授業評価等は紙面による

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・新人教育は、4月及びISTU（講義動画）受講により実施。
- ・教員会議 研究科所属の全教員 令和元年7月17日（水）実施 （出席者：58名）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・FDの内容を踏まえ、授業改善及び学生への研究指導に活かすよう、改善に取り組んでいる。
- ・授業評価の結果を踏まえ、各教員は授業の改善に向けて取り組んでいる。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・有：年1回（2月下旬）

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・教員：教授会 学生：掲示及びホームページ

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

研究科では、これまでの強みをさらに発展させ、「生命現象の包括的・統合的な理解」と「人類の福祉への貢献」の両立を目指し、本学はもとより、広く国内外から多彩な大学院学生を受け入れ、前期課程では、生命・環境・情報倫理、社会的責任についての深い理解とバイオ産業界の基礎的な状況や知識をもち、生命科学の広い領域を俯瞰し、各専攻領域の基礎的な研究力を身につけた人材を育成している。後期課程では、高度な研究者として研究を企画・実践する能力に加え、高度な実践的研究力をもった人材の育成、さらに高度な専門性を持った上で、企業、自治体、教育機関、研究機関などで活躍できる実践力を持つ人材を育成している。これらの目的を達成するために、今回の改組により新3専攻として、「脳生命統御科学専攻」、「生態発生適応科学専攻」、「分子化学生物学専攻」を設置した。

「脳生命統御科学専攻」では、こころとからだをコントロールする「脳」を中心に、細胞集団が生命を統御する仕組みについて教育研究する組織体制を構築した。「脳・神経」の挑戦的分野は「ヒトの理解につながる生物科学、医療・福祉（疾患）、ヒトと社会」のいずれにも深く関連しており、高齢化が深刻な現代社会において、健康や医療を通して人類社会に貢献できる人材の育成に取り組んでいる。令和元年度には個体認知と社会適応の教育研究を推進する「分子行動分野」を創設し、高次の脳活動に関する研究分野を強化した。

「生態発生適応科学専攻」では、生態学・発生学・進化学の新しいアプローチから生物の発生・再生から環境問題の解決までを目指した教育研究を実施している。多様な生命現象はゲノムと生物内外の環境との相互作用によって創出されることから、ゲノム・生物個体・生物集団に内在する複雑な相互作用を明らかにすることで、様々な環境やその変動が生態系へ及ぼす影響を統合的に理解する研究を推進している。令和2年度には植物科学の先端的研究を行う研究分野2分野を新たに設置する予定で教授選考が進行中である。

「分子化学生物学専攻」では、低分子化合物から核酸やタンパク質を含めた生体高分子が生体内で作用する機序を明らかにすることから生命現象の本質的な理解に迫り、生命現象を制御する方法論の創出と分子とゲノムの利活用を目指す教育研究を実施している。本改組に伴い新たにバイオインフォマティクスを中心とした教育研究分野「進化ゲノミクス分野」を創設し、ゲノム進化や比較ゲノムなどビックデータ解析を含めた時代の要請に応じた教育研究を展開している。

今回の改組で新たに設けた専攻横断的な教育カリキュラム「バイオ人材育成カリキュラム」では、各専攻において培った生命科学全般における基盤知識と高度な専門性に加えて、企業・起業・自治体・NGO・研究機関・教育機関など、バイオ産業界や自然や生命を活用した持続的社会的構築に対し、実践的に指導的立場で活躍できるバイオ人材を育成している。さらに、「博士バイオ人材育成」の取組として、博士後期課程の大学院生に対するキャリア支援を強化し、キャリア相談会の定期開催、および、個別の就職支援・キャリア形成相談を行っている。これらの取り組みにより、博士前期課程学生の進学意欲向上や、博士後期課程学生の多様なキャリア選択に効果が表れはじめている。

部局横断的な取り組みとして、国際共同大学院プログラム「データ科学プログラム」および「Neuro Globalプログラム」、また令和元年度には「未来型医療創造卓越大学院プログラム」もそれぞれ順調にスタートし、多くの学生の参加・履修が行われている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和3年頃 公表予定

b 公表方法

- ・外部評価を実施するため自己点検・評価報告書を刊行し、外部評価委員及び研究科所属の教職員に配布するとともに、ホームページ上に公開の予定。

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和4年度までに評価機関の評価を受けるべく、学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和２年度）

a 公表予定の有無 [☒ 有 ・ 無]

《 a で「有」の場合 》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後１ヶ月以内 ・ ・ 公表後３ヶ月以降]

c 公表方法 [・ その他（ ）]

《 a で公表「無」の場合 》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

国立大学法人東北大学

(2) 大 学 名

東北大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

〒980-8577

宮城県仙台市青葉区片平2丁目1番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
学 長	(オオノ ヒデオ) 大野 英男 (平成30年4月)		
研究科長	(ヒガシタニ アツシ) 東谷 篤志 (平成27年4月)	(スギモト アサコ) 杉本 亜砂子 (平成31年4月)	任期満了のため平成31年4月1日付けで変更(元)
専 攻 長	(ヤマグチ シンジロウ) 山口 信次郎 (平成30年4月)	(オオハシ カズマサ) 大橋 一正 (平成30年8月)	辞職のため平成30年8月1日付けで変更(元)
		(タナカ ヨシカズ) 田中 良和 (令和2年4月)	任期満了のため令和2年4月1日付けで変更(2)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
 (例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)
 令和2年度に報告する内容 → (2)
 ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
 ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
 ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の 名称(学位)	学位又は学科の 分野	設 置 時 の 計 画				備 考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
生命科学研究科 分子化学生物学専攻 (博士後期課程) 博士(生命科学)	理学関係 農学関係 医学関係	3 年	10 人	年次 人	30 人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員 超 過 率	開設年度から報 告年度までの平 均入学定員超過 率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	10 (-) [-]		10 (-) [-]		10 (-) [-]		0.70倍	—	令和2年10月 入学を実施予 定
志願者数	2 (0) [0]	2 (0) [2]	6 (0) [3]	4 (0) [4]	7 (0) [0]				
受験者数	2 (0) [0]	2 (0) [2]	6 (0) [3]	4 (0) [4]	7 (0) [0]				
合格者数	2 (0) [0]	2 (0) [2]	6 (0) [3]	4 (0) [4]	7 (0) [0]				
B 入学者数	2 (0) [0]	2 (0) [2]	6 (0) [3]	4 (0) [4]	7 (0) [0]				
入学定員超過率 B/A	0.40		1.00		0.70				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	2 [0] (-)	2 [2] (-)	6 [3] (-)	4 [4] (-)	7 [0] (-)	4 [4] (-)	
2年次			2 [0] (-)	2 [2] (-)	6 [3] (-)	2 [2] (-)	
3年次					2 [0] (-)	[] ()	
計	4 [2] (-)		14 [9] (-)		21 [9] (-)		

・令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「－」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「－」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「－」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	4 人	0 人	平成30年度	0 人	0 人	
令和元年度	14 人	0 人	平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
令和2年度	21 人	0 人	平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{4} = \boxed{0} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{14} = \boxed{0} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{21} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<生命科学研究所 分子化学生物学専攻（後期課程）>

（1）－① 授業科目表

【事前伺い時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	課題研究B(分子化学生物学)	1・2・3通	8			13	9		10		兼6
	イノベーションセミナー	1前・後	1			1					
	起業支援論	1前・後		2							兼1
	バイオ産業実践科目	2前・後		2		1					
	小計(4科目)	－	9	4		13	9		10		兼7
	合計(4科目)	－	9	4		13	9		10		兼7
修了要件及び履修方法											
必修科目9 単位を修得すること。											

【令和2年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	課題研究B(分子化学生物学)	1・2・3通	8			11	9	1	10		兼7
	イノベーションセミナー	1前・後	1			1					兼1
	起業支援論	1前・後		2							兼1
	バイオ産業実践科目	2前・後		2		1	1				兼1
	小計(4科目)	－	9	4		11	9	1	10		兼8
	合計(4科目)	－	9	4		11	9	1	10		兼8
修了要件及び履修方法											
必修科目9 単位を修得すること。											

【平成30年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専門 科目	課題研究B(分子化学生物学)	1・2・3通	8			11	10		9		兼8
	イノベーションセミナー	1前・後	1			1					兼1
	起業支援論	1前・後		2							兼1
	バイオ産業実践科目	2前・後		2		1	1				兼1
	小計(4科目)	—	9	4		11	10		9		兼9
合計(4科目)		—	9	4		11	10		9		兼9
修了要件及び履修方法											
必修科目9単位を修得すること。											

【令和元年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専門 科目	課題研究B(分子化学生物学)	1・2・3通	8			11	10	1	10		兼8
	イノベーションセミナー	1前・後	1			1					兼1
	起業支援論	1前・後		2							兼1
	バイオ産業実践科目	2前・後		2		1	1				兼1
	小計(4科目)	—	9	4		11	10	1	10		兼9
合計(4科目)		—	9	4		11	10	1	10		兼9
修了要件及び履修方法											
必修科目9単位を修得すること。											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。
- (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・准教授1名が教授に、及び助教2名が准教授に昇任、助教1名採用、教育内容の充実並びに事前伺い時の記載誤りのため、「課題研究B（分子化学生物学）」の専任教員等の配置を「教授13、准教授9、助教10、兼6」から「教授11、准教授10、助教9、兼8」に変更。
- ・教育内容の充実のため、「イノベーションセミナー」の専任教員等の配置に「兼1」を追加。
- ・教育内容の充実のため、「バイオ産業実践科目」の専任教員等の配置に「准教授1、兼1」を追加。

【令和元年度】

- ・教授1名及び助教2名退職、教授1名及び助教3名採用並びに教育内容の充実のため、「課題研究B（分子化学生物学）」の専任教員等の配置を「助教9」から「講師1、助教10」に変更。

【令和2年度】

- ・准教授1名、助教2名及び兼任講師1名退職並びに助教2名採用のため、「課題研究B（分子化学生物学）」の専任教員等の配置を「准教授10、兼8」から「准教授9、兼7」に変更。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
2 科目	2 科目	0 科目	4 科目	2 科目 [0]	2 科目 [0]	0 科目 [0]	4 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{4} = \boxed{} 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1)	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	購入のため(2) 一部売却のため(元)			
	校 舎 敷 地	21,917,049㎡ 21,915,365㎡ 22,010,146㎡	0㎡	0㎡	21,917,049㎡ 21,915,365㎡ 22,010,146㎡				
	運動場用地	132,573㎡	0㎡	0㎡	132,573㎡				
	小 計	22,049,622㎡ 22,047,938㎡ 22,142,719㎡	0㎡	0㎡	22,049,622㎡ 22,047,938㎡ 22,142,719㎡				
	そ の 他	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡				
	合 計	22,049,622㎡ 22,047,938㎡ 22,142,719㎡	0㎡	0㎡	22,049,622㎡ 22,047,938㎡ 22,142,719㎡				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	一部取り壊しのため(2) 一部取り壊しのため(元)				
	1,119,573㎡ 1,121,513㎡ 1,152,992㎡ (1,152,992㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	1,119,573㎡ 1,121,513㎡ 1,152,992㎡ (1,152,992㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	3室	0室	57室	0室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	生命科学研究所分子化学学生物学専攻			16 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	研究科単位での特定不能な ため、大学全体の数 図書等購入及び視聴覚資料 等廃棄のため(2) 図書等購入のため(元)	
	生命科学研究所 分子化学学生物学 専攻	4,180,950 (1,974,780) 4,168,468 (1,974,876) 4,142,543 (1,970,596) (4,180,950 (1,974,780)) (4,168,468 (1,974,876)) (4,142,543 (1,970,596))	86,599 (42,652) 86,198 (42,422) 84,979 (42,100) (86,599 (42,652)) (86,198 (42,422)) (84,979 (42,100))	13,543 (13,528) 13,287 (13,272) 13,431 (13,416) (13,543 (13,528)) (13,287 (13,272)) (13,431 (13,416))	7,429 8,242 7,232 (7,429) (8,242) (7,232)	46,462 45,198 38,733 (46,462) (45,198) (38,733)	2,432,337 2,432,438 2,432,337 (2,432,337) (2,432,338) (2,432,337)		
	計	4,180,950 (1,974,780) 4,168,468 (1,974,876) 4,142,543 (1,970,596) (4,180,950 (1,974,780)) (4,168,468 (1,974,876)) (4,142,543 (1,970,596))	86,599 (42,652) 86,198 (42,422) 84,979 (42,100) (86,599 (42,652)) (86,198 (42,422)) (84,979 (42,100))	13,543 (13,528) 13,287 (13,272) 13,431 (13,416) (13,543 (13,528)) (13,287 (13,272)) (13,431 (13,416))	7,429 8,242 7,232 (7,429) (8,242) (7,232)	46,462 45,198 38,733 (46,462) (45,198) (38,733)	2,432,337 2,432,438 2,432,337 (2,432,337) (2,432,338) (2,432,337)		
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数	大学全体					
	37,050㎡ 45,481㎡	2,554席 2,885席 2,874席	3,914,722冊 4,328,122冊 4,563,766冊	一部改修中のため(2) 座席の新規購入及び書庫の 収容量の縮小のため(元)					
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体				
	7,024㎡	武道場							
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	千円	千円	千円	千円	千円	千円			
学生納付金以外の維持方法の概要									

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称		東北大学										備 考
既設学部等の名称		修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入 学定員 超過率	令和2 年度入 学定員 超過率	定員変更 年度（AC 期間の学 科のみ）	開設 年度	所 在 地	
文学部	人文社会学科	4	210	—	840	学士 （文学）	1.05	1.05		平9年度 改組	宮城県仙台市青 葉区川内27番1号	
	教育学部	4	70	—	280	学士 （教育学）	1.05	1.07		平10年 度改組	宮城県仙台市青 葉区川内27番1号	
法学部	法学科	4	160	—	640	学士 （法学）	1.05	1.04		昭24年 度	宮城県仙台市青 葉区川内27番1号	
経済学部	経済学科	4	130	3年次 10	540	学士 （経済学）	1.04	1.03		昭24年 度	宮城県仙台市青 葉区川内27番1号	
	経営学科	4	130	3年次 10	540					昭43年 度		
	計		260	20	1,080							
理学部	数学科	4	45	—	180	学士 （理学）	0.97	0.97		昭24年 度	宮城県仙台市青 葉区荒巻字青葉6 番3号	
	物理学科	4	78	—	312		1.00	1.00		平6年度 改組・統 合		
	宇宙地球物理学科	4	41	—	164					平4年度 改組		
	化学科	4	70	—	280		1.07	1.00		平7年度 改組・統 合		
	地圏環境科学科	4	30	—	120		1.01	1.02		平4年度 改組		
	地球惑星物質科学科	4	20	—	80					平4年度 改組（平 20年度 改称）		
	生物学科	4	40	—	160		1.03	1.05		昭24年 度		
	計		324	—	1,296		1.01	1.00				
医学部	医学科	6	116	—	791	学士 （医学）	1.01	1.01	令和2	昭24年 度	宮城県仙台市青 葉区星陵町2番1 号	令和2年度定員変 更（11）
	保健学科	4	144	—	576	学士 （看護学） 学士 （保健学）	1.00	0.98		平16年 度改組		
	計		279	—	1,386		1.01	1.00				
歯学部	歯学科	6	53	—	318	学士 （歯学）	1.00	1.00		昭40年 度	宮城県仙台市青 葉区星陵町2番1 号	
薬学部	創薬科学科	4	60	—	240	学士 （創薬科学）	1.08	1.06		平18年 度改組	宮城県仙台市青 葉区荒巻字青葉6 番3号	
	薬学科	6	20	—	120	学士 （薬学）	1.07	1.05				
	計		80	—	360		1.07	1.06				

工学部	機械知能・航空工学科	4	234	—	936	学士 (工学)	1.01	0.95		平16年度改組	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6番6号	
	電気情報物理工学科	4	243	—	972		1.02	1.03		平16年度改組 (平19年度・平27年度改称)		
	化学・バイオ工学科	4	113	—	452		0.99	1.01	平16年度改組			
	材料科学総合学科	4	113	—	452		1.01	1.02				
	建築・社会環境工学科	4	107	—	428		1.00	1.01				
	計		810	—	3,240		1.01	1.00				
農学部	生物生産科学科	4	90	—	360	学士 (農学)	1.04	1.04		平4年度	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉468-1	
	応用生物化学科	4	60	—	240							
	計		150	—	600		1.04	1.04				
※ 複数の学科を有する学部の学生募集は、経済学部、薬学部及び農学部にあつては学部一括で、理学部にあつては1又は複数の学科毎にそれぞれ行い、学生の所属学科は、第1年次修了時、第2年次又は第3年次に決定する。												
文学研究科	日本文学専攻	5	29	—	58	修士 (文学) 修士 (学術) 博士 (文学) 博士 (学術)	1.18	1.24	令和元	令和元年度改組	宮城県仙台市青葉区川内27番1号	学生数は、上段が前期課程で、下段が後期課程である。
			14	—	28		1.31	1.21	令和元			
	広域文化学専攻	5	29	—	58		0.84	0.68	令和元			
			12	—	24		0.95	1.16	令和元			
	総合人間学専攻	5	31	—	62		1.19	1.09	令和元			
			12	—	24		1.08	1.16	令和元			
	文化科学専攻	5	—	—	—		—	—		平11年度改組		
			—	—	—		—	—				
	言語科学専攻	5	—	—	—		—	—		平12年度改組		
			—	—	—		—	—				
歴史科学専攻	5	—	—	—	—	—		平12年度改組				
		—	—	—	—	—						
人間科学専攻	5	—	—	—	—	—		平12年度改組				
		—	—	—	—	—						
教育学研究科	総合教育科学専攻	5	45	—	90	修士 (教育学) 修士 (教育情報学) 博士 (教育学) 博士 (教育情報学)	0.93	0.91		平30年度改組	宮城県仙台市青葉区川内27番1号	
			15	—	45		1.20	1.00				
法学研究科	法政理論研究専攻	5	10	—	20	修士 (法学) 修士 (学術) 博士 (法学) 博士 (学術)	0.95	0.60		平12年度改組 (平18年度改称)	宮城県仙台市青葉区川内27番1号	平成30年度定員変更 (△8)
			12	—	36		0.63	0.66				
	総合法制専攻 (法科大学院の課程)	3	50	—	150	法務博士 (専門職)	0.82	1.04	平16年度改組	宮城県仙台市青葉区片平二丁目1番1号		
	公共法政策専攻 (専門職学位課程)	2	30	—	60	公共法政策修士 (専門職)	1.06	1.00				

経済学研究科	経済経営学専攻	5	60	—	110	修士 (経済学) 修士 (経営学) 修士 (学術) 博士 (経済学) 博士 (経営学) 博士 (学術)	0.80	0.53		平17年度改組	宮城県仙台市青葉区川内27番1号	令和2年度定員変更 (10)
			14	—	54		0.68	0.35				令和2年度定員変更 (△6)
	会計専門職専攻 (専門職学位課程)	2	40	—	80	会計修士 (専門職)	0.87	0.75		平17年度		
理学研究科	数学専攻	5	38	—	76	修士 (理学) 修士 (学術) 博士 (理学) 博士 (学術)	0.87	0.89		平7年度改組	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6番3号	
			18	—	54		0.57	0.44				
	物理学専攻	5	91	—	182		0.88	0.84		平6年度改組		
			46	—	138		0.55	0.54				
	天文学専攻	5	9	—	18		1.11	1.22				
			4	—	12		0.66	0.50				
	地球物理学専攻	5	26	—	52		1.01	0.96				
			13	—	39		0.56	0.46				
	化学専攻	5	66	—	132		1.23	1.09		平7年度改組		
			33	—	99		0.55	0.48				
	地学専攻	5	32	—	64		1.19	1.18		平6年度改組		
			16	—	48		0.51	0.37				
医学系研究科	医科学専攻 (修士課程)	2	30	—	60	修士 (医科学) 修士 (学術)	1.16	1.00		平15年度改組	宮城県仙台市青葉区星陵町2番1号	平成30年度定員変更 (△2)
	医科学専攻 (博士課程)	4	130	—	520	博士 (医学) 博士 (学術)	1.09	1.01		平9年度改組		
	障害科学専攻	5	20	—	40	修士 (障害科学) 修士 (学術) 博士 (障害科学) 博士 (学術)	0.82	0.65		平6年度改組		
			9	—	27	1.14	0.33		平8年度改組			
	保健学専攻	5	32	—	64	修士 (看護学) 修士 (保健学) 修士 (学術) 博士 (看護学) 博士 (保健学) 博士 (学術)	1.20	1.25		平20年度改組		
			12	—	36	1.11	1.00		平22年度改組			
	公衆衛生学専攻 (修士課程)	2	10	—	20	修士 (公衆衛生学)	1.15	1.20		平27年度		
歯学研究科	歯科学専攻 (修士課程)	2	8	—	14	修士 (口腔科学) 修士 (学術)	1.06	1.12		平16年度	宮城県仙台市青葉区星陵町4番1号	令和2年度定員変更 (2)
	歯科学専攻 (博士課程)	4	42	—	168	博士 (歯学) 博士 (学術)	0.94	0.73		平12年度改組		

薬学研究科	分子薬科学専攻	5	22	—	44	修士 (薬科学) 修士 (学術) 博士 (薬科学) 博士 (学術)	1.26	1.22		平22年度	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6番3号
			8	—	24		0.66	0.75			
	生命薬科学専攻	5	32	—	64		0.96	0.87			
			10	—	30		0.73	1.00			
	医療薬学専攻 (博士課程)	4	4	—	16	博士 (薬学) 博士 (学術)	0.50	0.75		平24年度	
工学部	機械機能創成専攻	5	42	—	84	修士 (工学) 修士 (学術) 博士 (工学) 博士 (学術)	1.39	1.45		平7年度改組 (平16年度改称・平28年度改称)	
			10	—	30		1.23	1.20			
	ファインメカニクス専攻	5	45	—	90		1.10	0.93			
			11	—	33		0.45	0.18			
	ロボティクス専攻	5	42	—	84		0.88	0.69		平15年度 (平28年度改称)	
			11	—	33		0.69	0.36			
	航空宇宙工学専攻	5	42	—	84		1.51	1.42		平7年度改組	
			11	—	33		1.05	1.09			
	量子エネルギー工学専攻	5	38	—	76		1.12	1.10		昭33年度 (平8年度改称)	
			11	—	33		0.84	0.63			
	電気エネルギーシステム専攻	5	32	—	64		1.18	1.31		平24年度	
			8	—	24		0.29	0.25			
	通信工学専攻	5	31	—	62		1.43	1.29			
			8	—	24		0.91	0.75			
	電子工学専攻	5	51	—	102		0.87	0.88		昭28年度	
			15	—	45		0.26	0.20			
	応用物理学専攻	5	32	—	64		0.93	0.78			
			11	—	33		0.72	0.54			
応用化学専攻	5	26	—	52	0.93	0.76					
		8	—	24	0.70	0.37					
化学工学専攻	5	34	—	68	1.05	1.05		昭40年度			
		7	—	21	0.51	0.42					
バイオ工学専攻	5	19	—	38	1.21	1.21		平4年度 (平16年度改称)			
		5	—	15	0.66	0.60					
金属フロンティア工学専攻	5	26	—	52	1.18	1.11		昭28年度 (平16年度改称)			
		7	—	21	1.09	0.71					
知能デバイス材料学専攻	5	37	—	74	1.18	1.10		昭39年度 (昭62年度・平16年度改称)			
		10	—	30	1.16	0.70					
材料システム工学専攻	5	30	—	60	1.13	1.06		昭44年度 (平9年度・平16年度改称)			
		8	—	24	0.91	0.75					
土木工学専攻	5	43	—	86	1.23	1.13		昭38年度			
		12	—	36	1.38	1.08					
都市・建築学専攻	5	45	—	90	1.16	1.15		昭38年度 (平8年度改称)			
		8	—	24	1.28	0.87					
技術社会システム専攻	5	21	—	42	1.11	1.14		平14年度			
		13	—	39	0.32	0.30					

農学研究科	資源生物科学専攻	5	36	—	72	修士 (農学) 修士 (学術) 博士 (農学) 博士 (学術)	1.30	1.22		平15年 度改組	宮城県仙台市青 葉区荒巻字青葉 468-1			
			13	—	39		0.99	0.76						
	応用生命科学専攻	5	35	—	70		1.15	1.08						
			13	—	39		0.50	0.30						
	生物産業創成科学 専攻	5	38	—	76		1.28	1.36						
			11	—	33		1.14	0.63						
国際文化研究科	国際文化研究専攻	5	35	—	70	修士 (国際文化) 修士 (学術) 博士 (国際文化) 博士 (学術)	0.90	1.00		平27年 度改組	宮城県仙台市青 葉区川内41			
			16	—	48		0.74	0.43						
情報科学研究科	情報基礎科学専攻	5	38	—	76	修士 (情報科学) 修士 (学術) 博士 (情報科学) 博士 (学術)	0.97	1.00		平5年度	宮城県仙台市青 葉区荒巻字青葉6 番3号			
			11	—	33		0.57	0.27						
	システム情報科学 専攻	5	37	—	74		1.25	1.24						
			11	—	33		1.26	0.81						
	人間社会情報科学 専攻	5	30	—	60		0.68	0.56						
			10	—	30		0.80	1.00						
	応用情報科学専攻	5	35	—	70		1.35	1.22						平15年 度
			10	—	30		0.66	0.50						
生命科学研究科	脳生命統御科学専攻	5	36	—	72	修士 (生命科学) 修士 (学術) 博士 (生命科学) 博士 (学術)	0.85	0.77		平30年 度改組	宮城県仙台市青 葉区片平二丁目1 番1号			
			10	—	30		0.50	0.40					平成30	
	生態発生適応科学 専攻	5	35	—	70		0.78	0.62					平成30	
			10	—	30		0.80	0.60						
	分子化学生物学専攻	5	35	—	70		1.22	1.22					平成30	
			10	—	30		0.70	0.70						
環境科学研究科	先進社会環境学専攻	5	40	—	80	修士 (環境科学) 修士 (学術) 博士 (環境科学) 博士 (学術)	1.11	1.05		平27年 度改組	宮城県仙台市青 葉区荒巻字青葉 468-1			
			13	—	39		1.07	0.38						
	先端環境創成学専攻	5	60	—	120		0.93	0.91						
			20	—	60		0.60	0.50						
医工学研究科	医工学専攻	5	39	—	78	修士 (医工学) 修士 (学術) 博士 (医工学) 博士 (学術)	1.17	1.05		平20年 度	宮城県仙台市青 葉区星陵町2番1 号 宮城県仙台市青 葉区荒巻字青葉6 番6号 宮城県仙台市青 葉区片平二丁目1 番1号	平成30年度定員 変更 (2)		
			12	—	36		1.05	1.00						

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

＜生命科学研究所 分子化学生物学専攻（後期課程）＞

（１）－① 担当教員表

【事前伺い時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	有本 博一 (51) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	佐々木 誠 (56) ＜平成30年4月＞ 理学博士 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	山口 信次郎 (48) ＜平成30年4月＞ 博士（農学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	大橋 一正 (50) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	田中 良和 (40) ＜平成30年4月＞ 博士（工学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	渡辺 正夫 (51) ＜平成30年4月＞ 博士（農学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	東谷 篤志 (54) ＜平成30年4月＞ 理学博士 イノベーションセミナー バイオ産業実践科目 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	高橋 聡 (52) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	水上 進 (42) ＜平成30年4月＞ 博士（薬学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	福葉 謙次 (47) ＜平成30年4月＞ 博士（工学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	准教授	牧野 能士 (42) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	准教授	安元 研一 (52) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	有本 博一 (52) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	佐々木 誠 (57) ＜平成30年4月＞ 理学博士 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	山口 信次郎 (49) ＜平成30年4月＞ 博士（農学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	大橋 一正 (51) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	田中 良和 (41) ＜平成30年4月＞ 博士（工学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	渡辺 正夫 (52) ＜平成30年4月＞ 博士（農学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	東谷 篤志 (55) ＜平成30年4月＞ 理学博士 イノベーションセミナー バイオ産業実践科目 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	高橋 聡 (53) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	水上 進 (43) ＜平成30年4月＞ 博士（薬学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	福葉 謙次 (48) ＜平成30年4月＞ 博士（工学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	牧野 能士 (43) ＜平成30年10月＞ 博士（理学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	准教授	安元 研一 (53) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	有本 博一 (53) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	佐々木 誠 (58) ＜平成30年4月＞ 理学博士 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	大橋 一正 (52) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	田中 良和 (42) ＜平成30年4月＞ 博士（工学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	渡辺 正夫 (53) ＜平成30年4月＞ 博士（農学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	東谷 篤志 (56) ＜平成30年4月＞ 理学博士 イノベーションセミナー バイオ産業実践科目 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	高橋 聡 (54) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	水上 進 (44) ＜平成30年4月＞ 博士（薬学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	福葉 謙次 (49) ＜平成30年4月＞ 博士（工学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	牧野 能士 (44) ＜平成30年10月＞ 博士（理学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	石川 敏 (47) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	准教授	安元 研一 (54) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	有本 博一 (54) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	佐々木 誠 (59) ＜平成30年4月＞ 理学博士 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	大橋 一正 (53) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	田中 良和 (43) ＜平成30年4月＞ 博士（工学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	渡辺 正夫 (54) ＜平成30年4月＞ 博士（農学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	東谷 篤志 (57) ＜平成30年4月＞ 理学博士 イノベーションセミナー バイオ産業実践科目 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	高橋 聡 (55) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	水上 進 (45) ＜平成30年4月＞ 博士（薬学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	福葉 謙次 (50) ＜平成30年4月＞ 博士（工学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	牧野 能士 (45) ＜平成30年10月＞ 博士（理学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	教授	石川 敏 (48) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）
専	准教授	安元 研一 (55) ＜平成30年4月＞ 博士（理学） 課題研究Ｂ（分子化学生物学）

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	小川 智久 (53) ＜平成30年4月＞ 理学博士	専	准教授	小川 智久 (54) ＜平成30年4月＞ 理学博士	専	准教授	小川 智久 (55) ＜平成30年4月＞ 理学博士	専	准教授	小川 智久 (56) ＜平成30年4月＞ 理学博士
		課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）
専	准教授	三井 久幸 (53) ＜平成30年4月＞ 博士（農学）	専	准教授	三井 久幸 (54) ＜平成30年4月＞ 博士（農学）	専	准教授	三井 久幸 (55) ＜平成30年4月＞ 博士（農学）	専	准教授	三井 久幸 (56) ＜平成30年4月＞ 博士（農学）
		課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）
専	准教授	菅野 明 (52) ＜平成30年4月＞ 博士（農学）	専	准教授	菅野 明 (53) ＜平成30年4月＞ 博士（農学）	専	准教授	菅野 明 (54) ＜平成30年4月＞ 博士（農学）	専	准教授	菅野 明 (55) ＜平成30年4月＞ 博士（農学）
		課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）
専	准教授	日出間 純 (52) ＜平成30年4月＞ 博士（農学）	専	准教授	日出間 純 (53) ＜平成30年4月＞ 博士（農学）	専	准教授	日出間 純 (54) ＜平成30年4月＞ 博士（農学）	専	准教授	日出間 純 (55) ＜平成30年4月＞ 博士（農学）
		課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）
専	准教授	佐藤 修正 (51) ＜平成30年4月＞ 博士（理学）	専	准教授	佐藤 修正 (52) ＜平成30年4月＞ 博士（理学）	専	准教授	佐藤 修正 (53) ＜平成30年4月＞ 博士（理学）	専	准教授	佐藤 修正 (54) ＜平成30年4月＞ 博士（理学）
		課題研究 B（分子化学生物学）			バイオ産業実践科目 課題研究 B（分子化学生物学）			バイオ産業実践科目 課題研究 B（分子化学生物学）			バイオ産業実践科目 課題研究 B（分子化学生物学）
専	准教授	松井 敏高 (46) ＜平成30年4月＞ 博士（理学）	専	准教授	松井 敏高 (47) ＜平成30年4月＞ 博士（理学）	専	准教授	松井 敏高 (48) ＜平成30年4月＞ 博士（理学）	専	准教授	松井 敏高 (49) ＜平成30年4月＞ 博士（理学）
		課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）
専	准教授	門倉 広 (54) ＜平成30年4月＞ 博士（農学）	専	准教授	門倉 広 (55) ＜平成30年4月＞ 博士（農学）	専	准教授	門倉 広 (56) ＜平成30年4月＞ 博士（農学）	専	准教授	門倉 広 (57) ＜平成30年4月＞ 博士（農学）
		課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）
専	助教	大坪 嘉行 (43) ＜平成30年4月＞ 博士（農学）	専	准教授	大坪 嘉行 (44) ＜平成30年4月＞ 博士（農学）	専	准教授	大坪 嘉行 (45) ＜平成30年4月＞ 博士（農学）	専	准教授	大坪 嘉行 (46) ＜平成30年4月＞ 博士（農学）
		課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）
専	助教	鎌形 清人 (39) ＜平成30年4月＞ 博士（理学）	専	准教授	鎌形 清人 (40) ＜平成30年10月＞ 博士（理学）	専	准教授	鎌形 清人 (41) ＜平成30年10月＞ 博士（理学）	専	准教授	鎌形 清人 (42) ＜平成30年10月＞ 博士（理学）
		課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）
専	助教	横山 隆亮 (51) ＜平成31年4月＞ 博士（理学）	専	講師	横山 隆亮 (52) ＜平成31年4月＞ 博士（理学）	専	講師	横山 隆亮 (53) ＜平成31年4月＞ 博士（理学）	専	講師	横山 隆亮 (54) ＜平成31年4月＞ 博士（理学）
		課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）
専	助教	一刀 かおり (31) ＜平成30年4月＞ 博士（生命科学）	専	助教	一刀 かおり (32) ＜平成30年4月＞ 博士（生命科学）	専	助教	一刀 かおり (33) ＜平成30年4月＞ 博士（生命科学）	専	助教	一刀 かおり (34) ＜平成30年4月＞ 博士（生命科学）
		課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）
専	助教	増口 潔 (36) ＜平成30年4月＞ 博士（農学）	専	助教	増口 潔 (37) ＜平成30年4月＞ 博士（農学）	専	助教	増口 潔 (38) ＜平成30年4月＞ 博士（農学）	専	助教	増口 潔 (39) ＜平成30年4月＞ 博士（農学）
		課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）
専	助教	山下 和成 (36) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）	専	助教	山下 和成 (37) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）	専	助教	山下 和成 (38) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）	専	助教	山下 和成 (39) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）
		課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）
専	助教	松井 崇 (37) ＜平成30年4月＞ 博士（理学）	専	助教	松井 崇 (38) ＜平成30年4月＞ 博士（理学）	専	助教	松井 崇 (39) ＜平成30年4月＞ 博士（理学）	専	助教	松井 崇 (40) ＜平成30年4月＞ 博士（理学）
		課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）			課題研究 B（分子化学生物学）

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専 助教		菅原 雅之 (38) ＜平成30年4月＞ 博士（生命科学）
		課題研究B（分子化学生物学）
専 助教		寺西 美佳 (43) ＜平成30年4月＞ 博士（農学）
		課題研究B（分子化学生物学）
専 助教		小井川 浩之 (37) ＜平成30年4月＞ 博士（理学）
		課題研究B（分子化学生物学）
専 助教		渡部 聡 (40) ＜平成30年4月＞ 博士（理学）
		課題研究B（分子化学生物学）
兼任 教授		永田 裕二 (51) ＜平成30年4月＞ 博士（農学）
		課題研究B（分子化学生物学）
兼任 教授		本橋 ほづみ (51) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）
		課題研究B（分子化学生物学）
兼任 教授		中山 啓子 (56) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）
		課題研究B（分子化学生物学）
兼任 教授		河田 雅圭 (59) ＜平成30年4月＞ 農学博士
		起業支援論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専 助教		菅原 雅之 (39) ＜平成30年4月＞ 博士（生命科学）
		課題研究B（分子化学生物学）
専 助教		寺西 美佳 (44) ＜平成30年4月＞ 博士（農学）
		課題研究B（分子化学生物学）
専 助教		小井川 浩之 (38) ＜平成30年4月＞ 博士（理学）
		課題研究B（分子化学生物学）
専 助教		渡部 聡 (41) ＜平成30年4月＞ 博士（理学）
		課題研究B（分子化学生物学）
専 助教		小和田 俊行 (37) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		課題研究B（分子化学生物学）
兼任 教授		永田 裕二 (52) ＜平成30年4月＞ 博士（農学）
		課題研究B（分子化学生物学）
兼任 教授		本橋 ほづみ (52) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）
		課題研究B（分子化学生物学）
兼任 教授		中山 啓子 (57) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）
		課題研究B（分子化学生物学）
兼任 教授		河田 雅圭 (60) ＜平成30年4月＞ 農学博士
		イノベーションセミナー 起業支援論 バイオ産業実践科目

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専 助教		菅原 雅之 (40) ＜平成30年4月＞ 博士（生命科学）
		課題研究B（分子化学生物学）
専 助教		寺西 美佳 (45) ＜平成30年4月＞ 博士（農学）
		課題研究B（分子化学生物学）
専 助教		小井川 浩之 (39) ＜平成30年4月＞ 博士（理学）
		課題研究B（分子化学生物学）
専 助教		渡部 聡 (42) ＜平成30年4月＞ 博士（理学）
		課題研究B（分子化学生物学）
専 助教		小和田 俊行 (38) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		課題研究B（分子化学生物学）
専 助教		梅原 厚志 (32) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		課題研究B（分子化学生物学）
専 助教		友重 秀介 (31) ＜令和元年9月＞ 博士（薬科学）
		課題研究B（分子化学生物学）
専 助教		横山 武司 (38) ＜令和元年9月＞ 博士（工学）
		課題研究B（分子化学生物学）
兼任 教授		永田 裕二 (53) ＜平成30年4月＞ 博士（農学）
		課題研究B（分子化学生物学）
兼任 教授		本橋 ほづみ (53) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）
		課題研究B（分子化学生物学）
兼任 教授		中山 啓子 (58) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）
		課題研究B（分子化学生物学）
兼任 教授		河田 雅圭 (61) ＜平成30年4月＞ 農学博士
		イノベーションセミナー 起業支援論 バイオ産業実践科目

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専 助教		寺西 美佳 (46) ＜平成30年4月＞ 博士（農学）
		課題研究B（分子化学生物学）
専 助教		小井川 浩之 (40) ＜平成30年4月＞ 博士（理学）
		課題研究B（分子化学生物学）
専 助教		渡部 聡 (43) ＜平成30年4月＞ 博士（理学）
		課題研究B（分子化学生物学）
専 助教		小和田 俊行 (39) ＜平成30年4月＞ 博士（工学）
		課題研究B（分子化学生物学）
専 助教		梅原 厚志 (33) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		課題研究B（分子化学生物学）
専 助教		友重 秀介 (32) ＜令和元年9月＞ 博士（薬科学）
		課題研究B（分子化学生物学）
専 助教		横山 武司 (39) ＜令和元年9月＞ 博士（工学）
		課題研究B（分子化学生物学）
専 助教		高橋 大輝 (30) ＜令和2年4月＞ 博士（生命科学）
		課題研究B（分子化学生物学）
専 助教		別所 美子 (31) ＜令和2年4月＞ 博士（農学）
		課題研究B（分子化学生物学）
兼任 教授		永田 裕二 (54) ＜平成30年4月＞ 博士（農学）
		課題研究B（分子化学生物学）
兼任 教授		本橋 ほづみ (54) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）
		課題研究B（分子化学生物学）
兼任 教授		中山 啓子 (59) ＜平成30年4月＞ 博士（医学）
		課題研究B（分子化学生物学）
兼任 教授		河田 雅圭 (62) ＜平成30年4月＞ 農学博士
		イノベーションセミナー 起業支援論 バイオ産業実践科目

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
			兼任	教授	上田 実 (52) ＜平成30年4月＞ 博士（農学） 課題研究B（分子化学生物学）	兼任	教授	上田 実 (53) ＜平成30年4月＞ 博士（農学） 課題研究B（分子化学生物学）	兼任	教授	上田 実 (54) ＜平成30年4月＞ 博士（農学） 課題研究B（分子化学生物学）
			兼任	教授	土井 隆行 (54) ＜平成30年4月＞ 博士（工学） 課題研究B（分子化学生物学）	兼任	教授	土井 隆行 (55) ＜平成30年4月＞ 博士（工学） 課題研究B（分子化学生物学）	兼任	教授	土井 隆行 (56) ＜平成30年4月＞ 博士（工学） 課題研究B（分子化学生物学）
兼任	講師	柴田 大輔 (63) ＜平成30年4月＞ 農学博士 課題研究B（分子化学生物学）	兼任	講師	柴田 大輔 (64) ＜平成30年4月＞ 農学博士 課題研究B（分子化学生物学）	兼任	講師	柴田 大輔 (65) ＜平成30年4月＞ 農学博士 課題研究B（分子化学生物学）			
兼任	講師	長瀬 隆弘 (56) ＜平成30年4月＞ 薬学博士 課題研究B（分子化学生物学）	兼任	講師	長瀬 隆弘 (57) ＜平成30年4月＞ 薬学博士 課題研究B（分子化学生物学）	兼任	講師	長瀬 隆弘 (58) ＜平成30年4月＞ 薬学博士 課題研究B（分子化学生物学）	兼任	講師	長瀬 隆弘 (59) ＜平成30年4月＞ 薬学博士 課題研究B（分子化学生物学）
兼任	講師	平川 英樹 (47) ＜平成30年4月＞ 博士（農学） 課題研究B（分子化学生物学）	兼任	講師	平川 英樹 (48) ＜平成30年4月＞ 博士（農学） 課題研究B（分子化学生物学）	兼任	講師	平川 英樹 (49) ＜平成30年4月＞ 博士（農学） 課題研究B（分子化学生物学）	兼任	講師	平川 英樹 (50) ＜平成30年4月＞ 博士（農学） 課題研究B（分子化学生物学）

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て（兼任、兼任教員を含む。）を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任（専門職大学等は専、実専、実（研）、実（実）、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除し、結めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・牧野能士准教授を教授に昇任。
- ・教育内容の充実のため、佐藤修正准教授の授業担当科目を追加。
- ・大坪嘉行助教を准教授に昇任。
- ・鎌形清人助教を准教授に昇任。
- ・平成30年4月小和田俊行助教就任。教育内容の充実のための担当者増。
- ・教育内容の充実のため、河田雅圭教授の授業担当科目を追加。
- ・平成30年4月上田実教授及び土井隆行教授就任。教育内容の充実のための担当者増。

【令和元年度】

- ・山口信次郎教授退職により、石川稔教授に変更。
- ・平成31年4月横山隆亮講師就任。
- ・増口潔助教退職により、梅原厚志助教に変更。
- ・松井崇助教退職により、横山武司助教に変更。
- ・令和元年9月友重秀介助教就任。

【令和2年度】

- ・小川智久准教授退職。他に担当教員がいるため支障なし。
- ・一刀かおり助教退職のため、高橋大輝助教に変更。
- ・菅原雅之助教退職のため、別所奏子助教に変更。
- ・柴田大輔講師退職。他に担当教員がいるため支障なし。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（ＡＣ教員審査）を受けてください。**ＡＣ教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（ＡＣ）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2)－① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
4	3	3
名	名	名

(注)・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2)－② 専任教員等数【大学院】

設 置 時 の 計 画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計（A）	助手（A'）	教 授	准教授	講 師	助 教	計（B）	助手（B'）
13	9	0	10	32	0	11	9	1	10	31	0
(10)	(10)	(0)	(10)	(30)	0						
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数				研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			
13	19	0				11	20	0			
(10)	(20)	(0)									
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計（C）	助手（C'）	教 授	准教授	講 師	助 教	計（D）	助手（D'）
11	9	1	10	31	0	11	9	1	10	31	0
[Δ2]	[0]	[+1]	[0]	[Δ1]	[0]	[Δ2]	[0]	[+1]	[0]	[Δ1]	[0]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数				研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			
11	20	0				11	20	0			
[Δ2]	[+1]	[0]									

- (注)・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
- ・「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
- ・「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受理済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
- ・「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
- ・専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2)－③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員の うち、定年を延長し て採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

- (注)・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
- ・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)－④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{31}{32} = \boxed{96.87} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)－⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{31} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)－⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞任（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由				
		該当なし									
合 計（D）						後任補充状況の集計（E）					
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
0	人		必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
			選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
			自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
			計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞任（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞任（未就任）の理由」に就任辞任の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	教授	山口 信次郎	H30. 7	必修	課題研究 B（分子化学生物学）	①	H30. 7. 31付け他大学に就職のため辞任（元）			
2	助教	増口 潔	H31. 3	必修	課題研究 B（分子化学生物学）	①	H31. 3. 31付け他大学に就職のため辞任（元）			
3	助教	松井 崇	H31. 3	必修	課題研究 B（分子化学生物学）	①	H31. 3. 31付け他大学に就職のため辞任（元）			
4	助教	一乃 かおり	R元. 12	必修	課題研究 B（分子化学生物学）	①	R元. 12. 31付け他大学に就職のため辞任（2）			
5	准教授	小川 智久	R2. 3	必修	課題研究 B（分子化学生物学）	③	R2. 3. 31付け他部局での採用のため辞任（2）			
6	助教	菅原 雅之	R2. 3	必修	課題研究 B（分子化学生物学）	①	R2. 3. 31付け他大学に就職のため辞任（2）			
合 計（ F ）						後任補充状況の集計（ G ）				
辞任した教員数		担当科目数の合計（ a ） + （ b ） + （ c ）			①の合計数（ a ）		②の合計数（ b ）		③の合計数（ c ）	
6	人	必修	6	科目	必修	5	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	6	科目	計	5	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）＋（F）				後任補充状況の集計（E）＋（G）									
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）				
6	人	必修	6	科目	必修	5	科目	必修	0	科目	必修	1	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	6	科目	計	5	科目	計	0	科目	計	1	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{6}{32} = 18.75 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別		担当予定科目	後任補充状況		辞任等の理由					
		該当なし											
合 計						後任補充状況の集計							
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び() 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「大学の所見」
 必修科目の課題研究B(分子化学生物学)は、専攻の教員が全員が担当する科目であるため、教育上の支障はない。
 「学生への周知方法」
 学生への周知方法については毎年学生便覧に掲載し、学生が授業を担当する教員を確認できるようにしている。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。） と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を 全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<生命科学研究科 分子化学生物学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

FDは教員会議並びに専攻会議、教員個人評価は評価委員会、授業評価は教務委員会並びに教授会で実施する。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

- ・教員会議（不定期開催、年2回）、専攻会議（年1回、年度末に定例会議と不定期開催）
- ・教員個人評価会議（不定期、年1回は自己評価報告書の提出）
- ・教授会（年12回、定期開催）、教務委員会（不定期 年4回程度）

c 委員会の審議事項等

教務委員会において学生の授業評価などのアンケート調査を分析し、それらをもとに教員の資質の維持向上の方策を検討する。運営機構でさらに審議した後に、教授会において方針を決定し、教員会議において全教員への方策を報告し実践する。

教育活動（研究指導含む）並びに研究活動に関する自己評価を、基幹講座に属する全教員から年1回提出させ、運営機構で教員の資質の維持向上についての状況を確認している。

② 実施状況

a 実施内容

- ・毎年、研究不正及び倫理教育のe-ラーニングコースを受講させ、公正な研究活動の推進に努めている。
- ・毎年、教員会議においても、研究倫理・研究不正防止・ハラスメント防止・学生指導法について専門の講師を招きFDを実施している。

b 実施方法

- ・研究科に所属する全教員参加の教員会議
- ・他部局と合同で新人教育研修会に参加。
- ・本学ISTUインターネットスクール（e-ラーニング）を利用
- ・学生による授業評価等は紙面による

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・新人教育は、4月及びISTU（講義動画）受講により実施。
- ・教員会議 研究科所属の全教員 令和元年7月17日（水）実施（出席者：58名）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・FDの内容を踏まえ、授業改善及び学生への研究指導に活かすよう、改善に取り組んでいる。
- ・授業評価の結果を踏まえ、各教員は授業の改善に向けて取り組んでいる。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・有：年1回（2月下旬）

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・教員：教授会 学生：掲示及びホームページ

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

研究科では、これまでの強みをさらに発展させ、「生命現象の包括的・統合的な理解」と「人類の福祉への貢献」の両立を目指し、本学はもとより、広く国内外から多彩な大学院学生を受け入れ、前期課程では、生命・環境・情報倫理、社会的責任についての深い理解とバイオ産業界の基礎的な状況や知識をもち、生命科学の広い領域を俯瞰し、各専攻領域の基礎的な研究力を身につけた人材を育成している。後期課程では、高度な研究者として研究を企画・実践する能力に加え、高度な実践的研究力をもった人材の育成、さらに高度な専門性を持った上で、企業、自治体、教育機関、研究機関などで活躍できる実践力を持つ人材を育成している。これらの目的を達成するために、今回の改組により新3専攻として、「脳生命統御科学専攻」、「生態発生適応科学専攻」、「分子化学生物学専攻」を設置した。

「脳生命統御科学専攻」では、ここからだをコントロールする「脳」を中心に、細胞集団が生命を統御する仕組みについて教育研究する組織体制を構築した。「脳・神経」の挑戦的分野は「ヒトの理解につながる生物学、医療・福祉（疾患）、ヒトと社会」のいずれにも深く関連しており、高齢化が深刻な現代社会において、健康や医療を通して人類社会に貢献できる人材の育成に取り組んでいる。令和元年度には個体認知と社会適応の教育研究を推進する「分子行動分野」を創設し、高次の脳活動に関する研究分野を強化した。

「生態発生適応科学専攻」では、生態学-発生学-進化学の新しいアプローチから生物の発生・再生から環境問題の解決までを目指した教育研究を実施している。多様な生命現象はゲノムと生物内外の環境との相互作用によって創出されることから、ゲノム・生物個体・生物集団に内在する複雑な相互作用を明らかにすることで、様々な環境やその変動が生態系へ及ぼす影響を統合的に理解する研究を推進している。令和2年度には植物科学の先端的研究を行う研究分野2分野を新たに設置する予定で教授選考が進行中である。

「分子化学生物学専攻」では、低分子化合物から核酸やタンパク質を含めた生体高分子が生体内で作用する機序を明らかにすることから生命現象の本質的な理解に迫り、生命現象を制御する方法論の創出と分子とゲノムの利活用を目指す教育研究を実施している。本改組に伴い新たにバイオインフォマティクスを中心とした教育研究分野「進化ゲノミクス分野」を創設し、ゲノム進化や比較ゲノムなどビックデータ解析を含めた時代の要請に応じた教育研究を展開している。

今回の改組で新たに設けた専攻横断的な教育カリキュラム「バイオ人材育成カリキュラム」では、各専攻において培った生命科学全般における基盤知識と高度な専門性に加えて、企業・起業・自治体・NGO・研究機関・教育機関など、バイオ産業界や自然や生命を活用した持続的社会的構築に対し、実践的に指導的立場で活躍できるバイオ人材を育成している。さらに、「博士バイオ人材育成」の取組として、博士後期課程の大学院生に対するキャリア支援を強化し、キャリア相談会の定期開催、および、個別の就職支援・キャリア形成相談を行っている。これらの取り組みにより、博士前期課程学生の進学意欲向上や、博士後期課程学生の多様なキャリア選択に効果が表れはじめている。

部局横断的な取り組みとして、国際共同大学院プログラム「データ科学プログラム」および「Neuro Globalプログラム」、また令和元年度には「未来型医療創造卓越大学院プログラム」もそれぞれ順調にスタートし、多くの学生の参加・履修が行われている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和3年頃 公表予定

b 公表方法

・外部評価を実施するため自己点検・評価報告書を刊行し、外部評価委員及び研究科所属の教職員に配布するとともに、ホームページ上に公開の予定。

③ 認証評価を受ける計画

・令和4年度までに評価機関の評価を受けるべく、学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和２年度）

a 公表予定の有無 [☒ 有 ・ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後１ヶ月以内 ・ ・ 公表後３ヶ月以降]

c 公表方法 [・ その他（ ）]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。